

唐橋郷土史

山城国 葛野郡 唐橋村 郷土史
京都市南区唐橋



コンドウ山（講堂跡）

まえがき

- 一、昭和六十一年三月の「唐橋だより」に、西寺の歴史と題して記載。
- 一、昭和六十三年二月の「唐橋だより」に、西寺の全貌と題して西寺の復原図と共に記載。
- 一、平成八年四月に「唐橋村の郷土史」を書き上げた。
- 一、今回は、前記を基本に、主な京都、東寺、日本、のできごとを年表にまとめてみました。
- 一、尚、付則として、絵図、写真、も共に付す。
- 一、平成十八年六月二十六日に、一部を修正。
- 一、平成二十八年十二月十日に、一部を修正。

西寺の全貌

史跡西寺跡保存会

日付

関係事項

平安京の正面玄関にあたる羅城門、朱雀大路をはさんで平安京造宮に伴つて創建された唯一の宮寺（國家の寺）として、西寺（右大寺）、東寺（左大寺）と呼称され威容を誇つていた。

一九一〇年 大正九年 「京都史蹟勝地調査会報告」によれば、御前通りに面してわずかに民家が点在し、西寺跡一帯は田畠が広がり講堂跡を示す金堂朝日の社が台地上に残つてゐる程度である。

一九二一年 大正十年 三月三日 台地状の土壤を中心に戸跡、西寺跡として文化庁の指定（京都市管理）国有地とされた。

一九三一年 昭和六年 京都市の計画事業として、西寺地区画整理が実施された。

一九三三年 昭和八年 工事竣工。

十一月四日 七条第一尋常小学校として開校、北は食堂、南は南大門、東は皇嘉門大路の西側、西は西回廊の間に創立された。
西寺児童公園は北が北僧房の北側の道、南は金堂、東は東僧坊、西は西僧坊の間に出来た。

一九四四年 昭和十九年 町界変更が告知された。

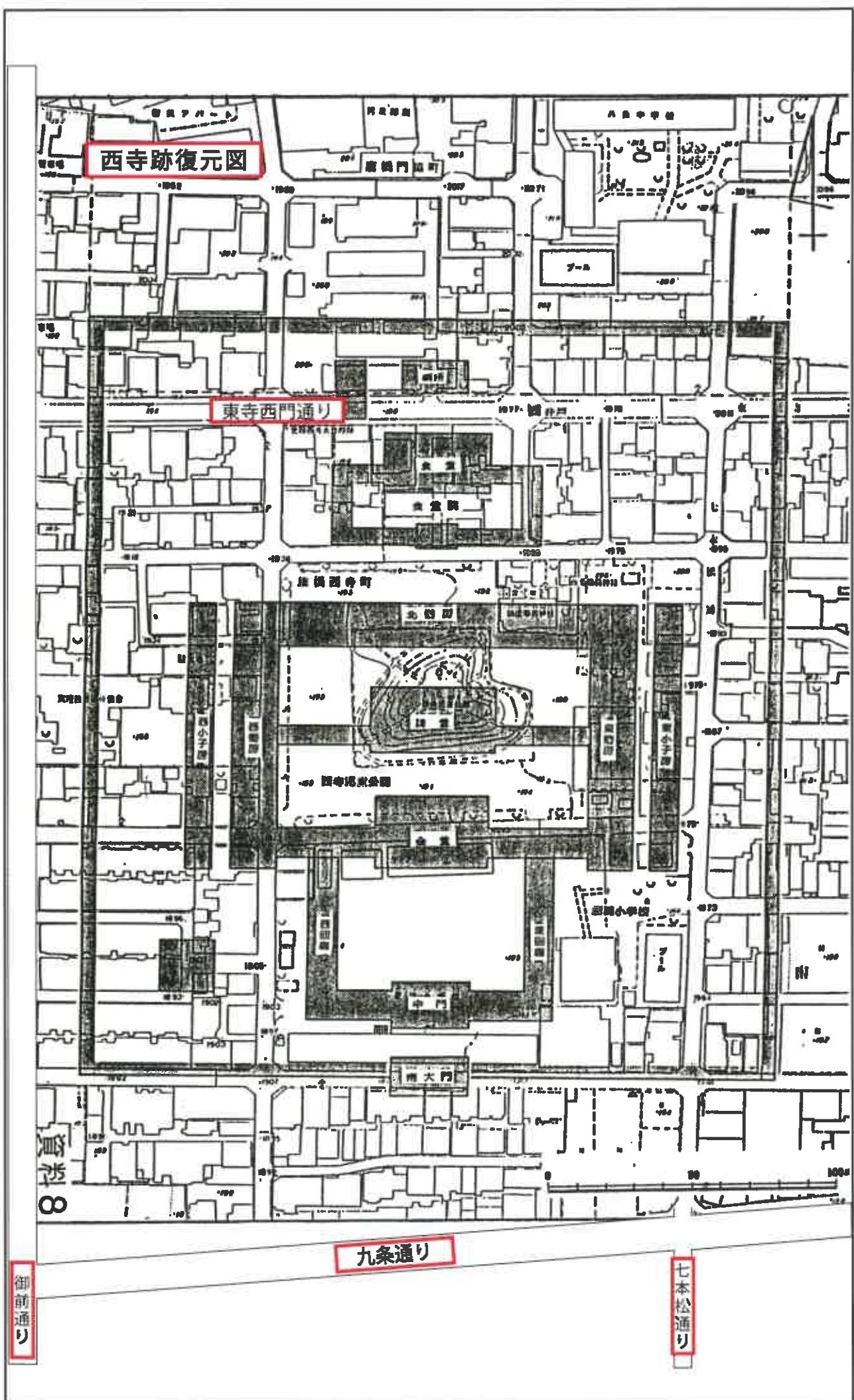
一九五九年 防火水槽を兼ねた水泳プールの建設が行われ、講堂跡東側にあたる東僧房が検出された。

昭和三十四年 それ以降発掘調査が数多く実施され、最近では東寺西門通りの北側より網所と北限築地跡等遺構が検出された。
六月十八日 西寺跡の下層から弥生時代から古墳時代にかけての住居跡や溝跡が発見され、西寺が創建される以前から、人々が定住していたことが判明している。（唐橋遺跡）
と言つ。

出土遺物—西寺の色々な瓦、陶器、須恵器、土師器、輸入陶器、土器類など平安時代の錢貨、土馬、木製の（人形、櫛、独楽）、大型井戸枠など出土している。その他、地下層からは弥生時代の土器、古墳時代（須恵器、土師器）奈良時代の土器が出土している。

以上記したように唐橋校と西寺児童公園及びその北側周辺一帯は、西寺跡と更に下層には古代の遺跡があり昨年秋に土盛補修されたコンドウ山（講堂跡）と共に学区民全員で大切に保存し、守つていきましょう。※尚、西寺跡復元図（平面図）を参考にして下さい。以上は京都市文化財保護課よりの資料等を頂き抜粋しました。

古代				原始 時代
平安時代	奈良時代	大和・古墳時代	弥生時代	西暦
七九三	七八四	七一〇	三一三 四八〇 五三九 六四五 六七七 六八五 七〇一	AD // // // 一一〇〇 一〇八 九七 一八〇 二七〇
" "	"	和銅 三年	天皇年紀、清寧 欽明 元年 大化 元年 天武 六年 " 十三年	主な唐橋村（学区）と関連のできごと 山城湖盆から淀川を通り排水され、京都盆地ができた。 羅城門遺跡から、チャート製の石核が出土。
十二年	三年	延暦 元年 一二年	大宝 元年	考古学上、唐橋遺跡という。 弥生、古墳時代の土器、住居跡が出土し、唐橋村に原住民が住んでいた。
朱雀大路から皇臺門大路までを開建坊と名付ける。	平安京より以前から、八条大路があった。 六月に、京中に寺院の建設禁止令が出た。	七八三 七八一 七二一 七八四	松尾大社が鎮座する。 帰化人が多く渡来した。	倭の国（日本）が百余国に分立していた。 第十代、崇神天皇が皇室の始祖王として位置づけ？
平安京築造により、唐橋村の位置が決まる。	十一月に第五十代、桓武天皇、平城京より長岡京に遷都する。	平安時代 奈良時代 大和・古墳時代 弥生時代	第十五代、応神天皇が初期のヤマト政權の最高首長 第十六代、仁德天皇の時代に大和政權が國土を統一する。 第二十二代、清寧天皇より、天皇年紀が始まる。 仏教公伝、第二十九代、欽明天皇の時代に伝わる。 大化の革新、第三十六代、孝德天皇。 上賀茂神社を造営した。 九月に初めて、伊勢神宮の式年遷宮の制を定める。 第四十一代、文武天皇藤原宮	初代、神武天皇、天照大神から三代目で、日向から東征伝承 主な東寺、京都、と日本のできごと



古代平安時代				時代
西暦	日本年号	主な唐橋村（学区）と関連のできごと	主な東寺、京都、と日本のできごと	
七九三	延暦十二年	九条一坊、一、二、七、八町の四町を女御殿とする。（井園町、赤金町） 〃、三、四、五、六町の四町を花苑とする。（花園町、高田町） 〃、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六町の八町を西寺の敷地とする。（門脇町、西寺町）		
七九四	延暦十三年	九条二坊、一、二、三、四、五、六、七、十一町の八町を、（平垣町、大宮尻町、川久保町、西平垣町） 右京、一坊、二坊は、平安京堤より転記する。 紀伊郡の佐井佐里、下布施里、の一部を（羅城門町、堂の前町、経田町、芦辺町、琵琶町）		
七九五	延暦十四年	以上は遷都のために、山背の国、葛野郡宇太村を調べさせた。		
七九六	延暦十五年	平安遷都に先だって西寺の地が定められた。北は東寺西門通（九条防門門小路）、南は九条大路、東は七本松通（皇嘉門大路）、西は御前通（西大宮大路）で、方二町の地を占めていた。		
七九七	延暦十六年	十月二十一日に、長岡京より、平安京に遷都した。		
七九八	延暦十七年	羅城門、鴻臚館、西寺、東寺の建設が始まる。（日本紀略）		
七九九	延暦十八年	西寺、造寺が行われるようになつた。		
八〇〇	延暦十九年	遷都の後、十一年で一応の造営が終る。		
八〇一	延暦二十年	桓武天皇が亡くなる。		
八〇二	弘仁元年	四年間に、鴻臚館を北に移転する【河海抄】より。 西寺の金堂、造営が竣工。		
八〇三	弘仁二年	西寺へ障子四十六枚施入。		
第五十代桓武天皇				
八〇四	延暦二十四年	鞍馬寺が創建される。		
八〇五	延暦二十五年	清水寺を創建される。		
八〇六	延暦二十六年	空海、最澄、らが入唐する。		
八〇七	延暦二十七年	最澄が、天台宗を開く、延暦寺。		
八〇八	延暦二十八年	空海が唐より帰朝し、真言宗を開く、東寺。		
八〇九	延暦二九年	九月に平城上皇が、遷都を計画して、動乱が起る「葵子の乱」。		

重要文化殿

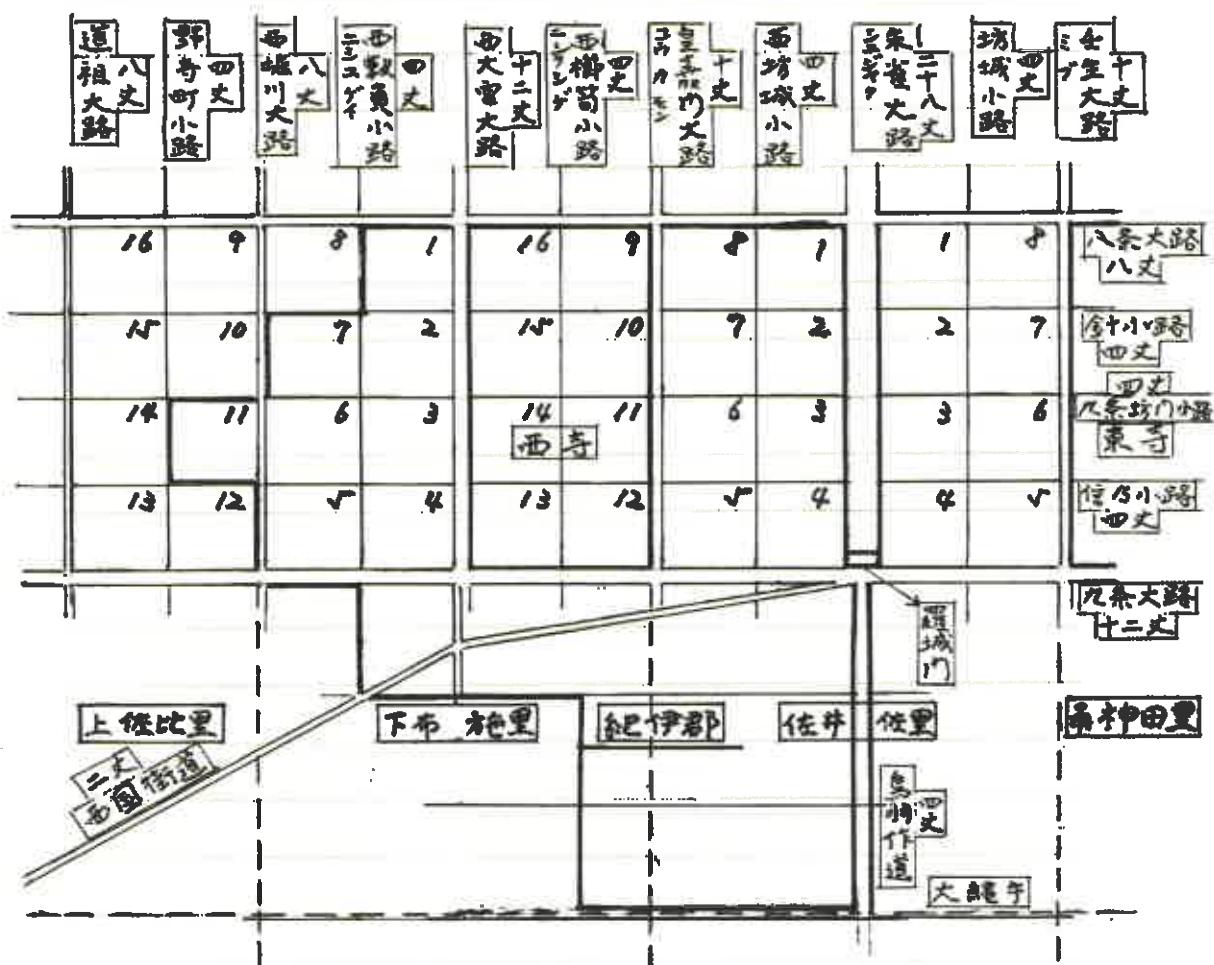
現在のご本殿は室町時代の初期に建てられたもので
「松尾造り」と呼ばれる特殊な建築様式として知られて
おり、重要文化財に指定されております。



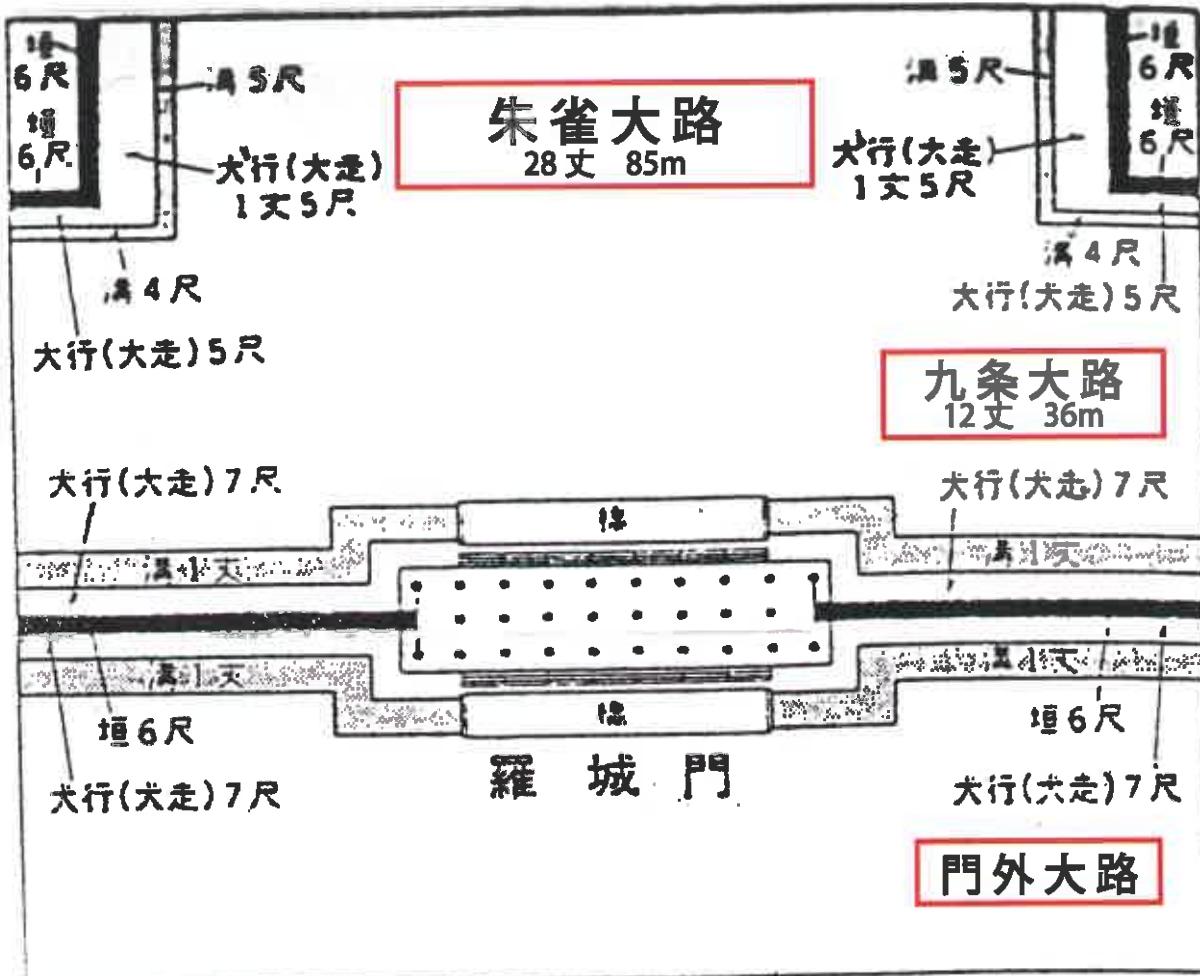
松尾大社 ご本殿

平成21年10月31日
今井幸一郎

平安京圖、唐橋村

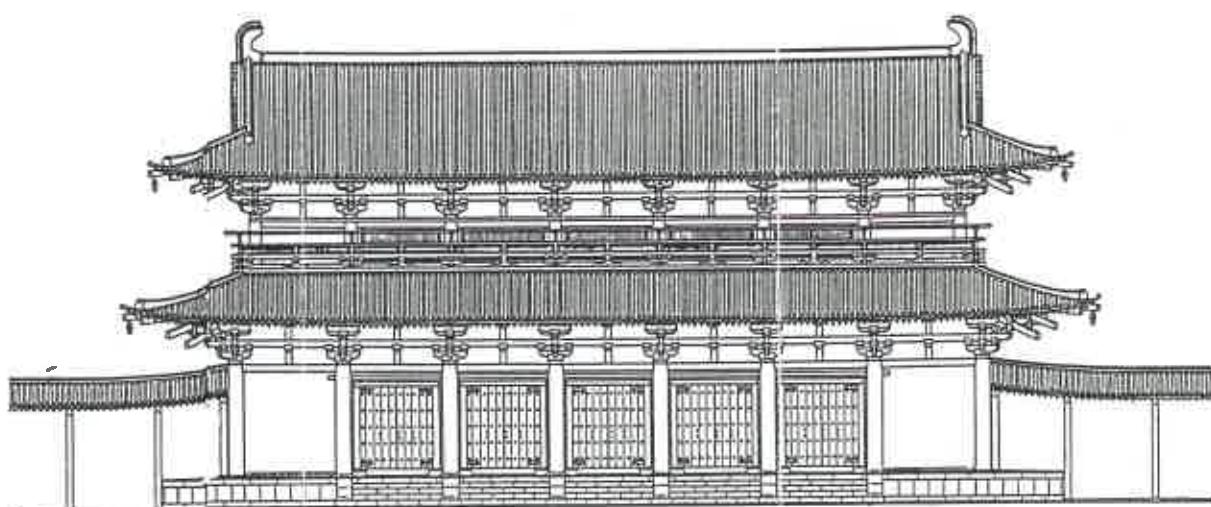


古時代 平安時代												時代	
												西暦	日本年号
八五七	八五〇	八四八	八四四	八四〇	八三五	八三一	八二〇	八一六	八一〇	八三	八二三	八一三	弘仁四年
天安元年	嘉祥三年	十五年	七年	二年	九年	"	承知	"	"	"	天長十三年	七年	主な唐橋村(学区)と関連のできごと
											西寺で始めて坐夏を行う。【日本後紀】		
											西寺の講堂で、落慶供養が行はれた【伊豆波字類抄】より、西寺の西塔一基が竣工したらしい。		
											八月十六日に、台風で羅城門が倒壊したが程なく再建された。		
											金堂建立(仏堂とは金堂であつたと解釈する)		
											嵯峨天皇が西寺を、守敏に下賜される。		
											大僧都長雕慧を西寺別当とす。		
											勤操大僧都として別当とす。桓武天皇の法要を行い、法華經を七日間説く。		
											勤僧入滅、北院造営さる。		
											雨乞いで、守敏と空海が祈禱で争い、守敏が負ける【歴史舞台】より。		
											当時に、矢取地蔵堂が有つたと思はれる。		
											講堂にて供養が行われ、御願仏新造さる。その間三十年を経過している。		
											空海が綜藝種智院を創立する。		
											空海が東寺の別当とする。		
											六月に最澄が亡くなる。		
											同じく東寺を空海に下賜され、教王護国寺と号する。		
											空海を東寺の別當とする。		
											三月に、空海が入滅する。		
											八月に、京中が洪水になる。		
											三月に、京の南で、群盗が横行した。		
											六月三日に、落雷で西寺の塔が大破する【文徳実錄】より。		
											西寺の殺柱に地震あり。(文徳実錄)		

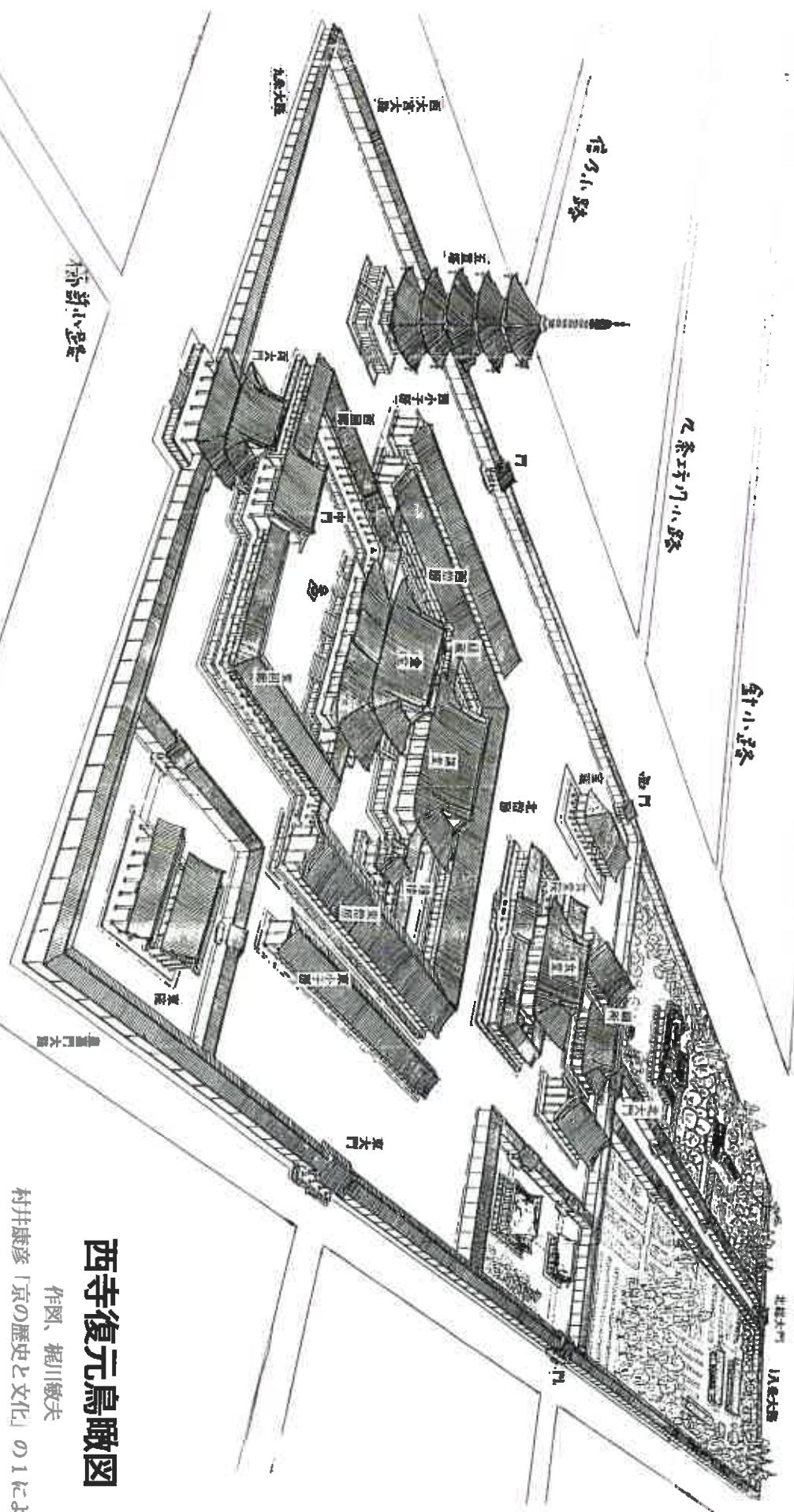


羅城門

羅城門は朱雀大路の最南に位置する平安京の巨大な入口である。兜跋毘沙門天は、この羅城門の上に鎮護の象徴として安置されていたが、羅城門倒壊後、東寺に移されて今日に至る。なお指図は『平安通志』をもとに推定・作図した。

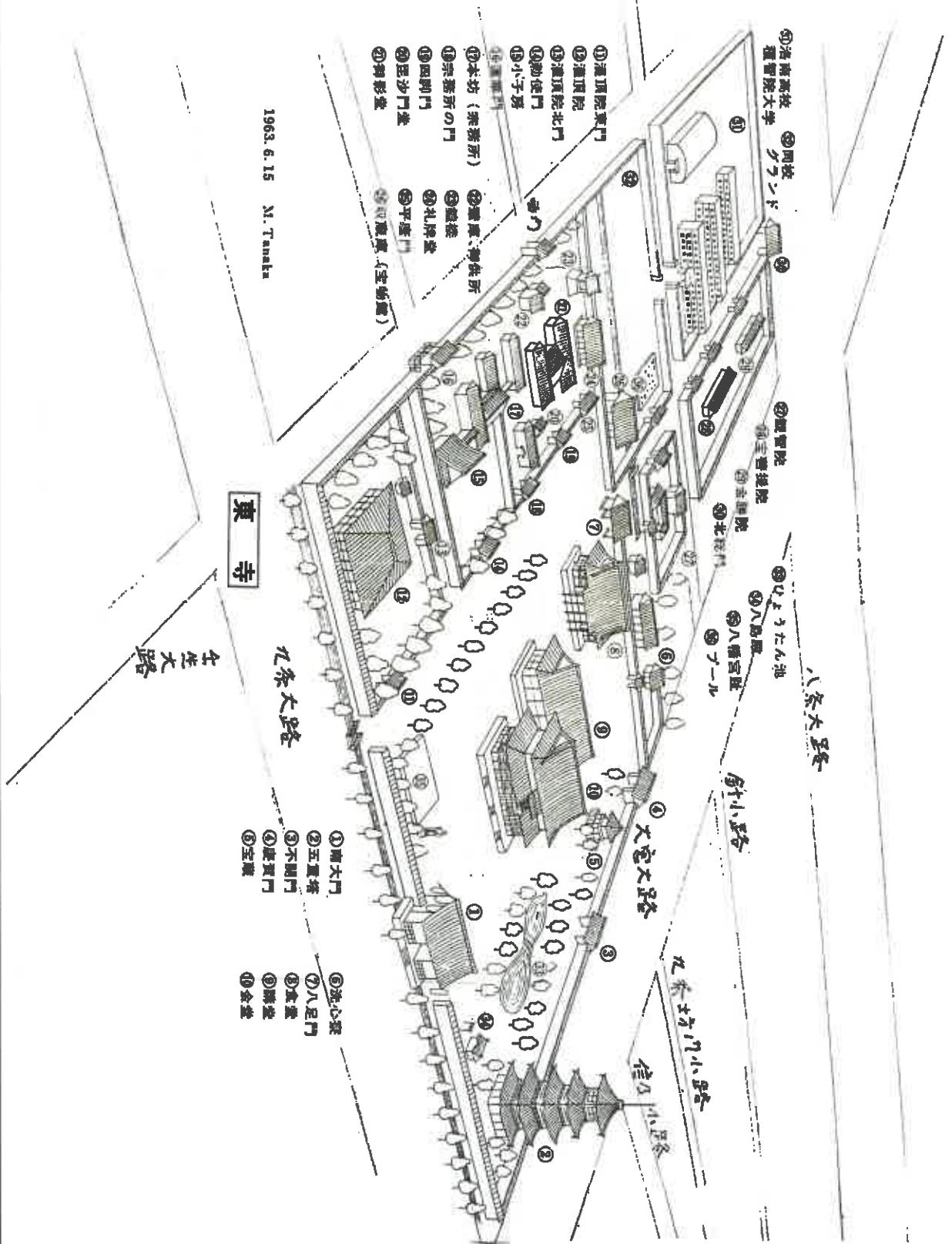


羅城門 復元図



西寺復元鳥瞰図

村井康彦「京の歴史と文化」の1による
作図、橋川敏美



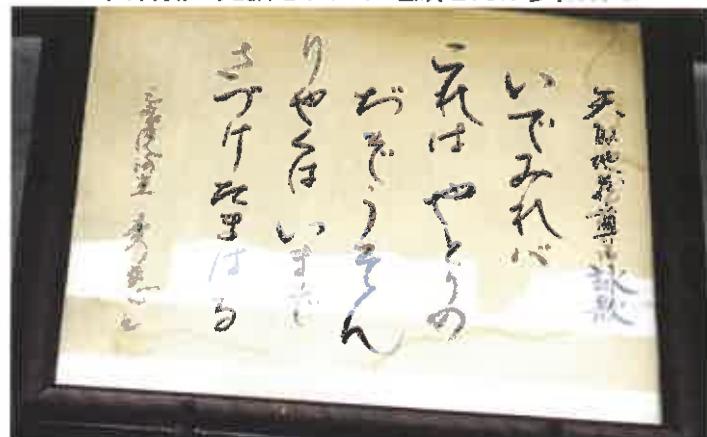


道しるべ



矢取地蔵堂

前に有る道しるべ
正面右側に発掘されたお地蔵さんが多数有る



道しるべ

矢取地蔵尊後詠歌



古代平安時代															時代
															西暦
															日本年号
九六六	九四八	九四四	九四〇	九三八	九三〇	九二九	九一九	九一八	九一七	九一〇	九〇六	九〇三	九〇〇	八八四	八五九
康保	天曆	"	"	天慶	"	延長	"	"	"	"	延喜	仁和	昌泰	元慶	天安
三年	七年	三年	元年	八年	七年	三十一年	十七年	十八年	十年	三年	二年	七年	六年	六年	二年
聖宝西寺別当となる。西寺宝塔造り始める。塔心柱建つ。(郡書類從)															松尾神社の祭りが始まる【江家次第】に「貞觀始祭文」と記す。
この頃から、莊園の支配と、町の形成が出来た。															文徳天皇の国忌を、始めて西寺で行う。
聖宝西寺別当となる。西寺宝塔造り始める。塔心柱建つ。(郡書類從)															主な唐橋村(学区)と関連のできごと
八月十五日、洪水で七条大路から南は、人馬が不通で田畠は冠水し、死者が多く出た。															主な東寺、京都、と日本のできごと
醍醐天皇の国忌を西寺におく。(日本紀略)															七月に、富士山が噴火した。
八月十九日、桂川が氾濫し、五条から南は海のようになる。															最澄に、伝教大師の謡号を賜う。
四月に京都に地震、六月には大地震があつた。															東寺造塔の糧として諸国より稻一六〇〇〇束をあてる【三代実録】より。
十一月に、京都は暴風雨にあつた。															東寺の塔が雷火で消失する【三代実録】より。
十一月、京都は旱天のため水が枯れる。															一月に、菅原道真が死没する。
地震で東寺の金堂が焼失する【扶桑略紀】より。															四月に、京都は暴風雨にあつた。
十月に空海に弘法大師の謡号を賜はる。															十一月、京都は旱天のため水が枯れる。
四月に京都に地震、六月には大地震があつた。															十一月に、京中で三尺も大雪が降つた。
九月に、大暴風で京中の家屋が多く倒れた。															九月に、大暴風で京中の家屋が多く倒れた。
三月に、強盗が横行し、京中を夜警する。															三月に、強盗が横行し、京中を夜警する。

古 代 平 安 時 代								時代	
								西 暦	日本年号
久 安	保 延	応 徳	康 平	天 喜	永 承	寛 徳	寛 仁	九 九 四	九 九 〇
五 年	二 年	三 年	二 年	三 年	七 年	二 年	五 年	正 暦	正 暦
一 四 九	一 四 六	一 四 三	一 四 〇	一 四 七	一 四 五	一 四 四	一 〇 一〇	九 九 〇〇	一 〇 一〇
八月四日、条に（本朝世紀）「今、松尾行幸巡檢也」・の記事あり。	八月に、東寺の塔の上棟を行う。	八月に、東寺の塔が落雷で焼失する。	宇治に平等院が創建される。	五月に、京都、大雨洪水、七月に大風。	二月に、藤原道長が無量寿院を建立するのに、羅城門の礎石を運ばせた。後に法成寺と改める。	この頃までは、西寺が國家の寺として、天皇の国忌が行われ、隆盛を極めた寺でした。	この頃に、西寺に於て、落慶供養が営まれていたが、寺運は次第に衰えてゆきました。	二月に、西寺は塔を残して主な建物が焼失したが、ただちに再建に着手した【日本紀略】より。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。
朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。	朱雀大路は、当初の「おもかげ」が無くなつた。
主な唐稿村（学区）と関連のでき」と	主な唐稿村（学区）と関連のでき」と	主な唐稿村（学区）と関連のでき」と	主な唐稿村（学区）と関連のでき」と	主な唐稿村（学区）と関連のでき」と	主な唐稿村（学区）と関連のでき」と	主な唐稿村（学区）と関連のでき」と	主な唐稿村（学区）と関連のでき」と	主な唐稿村（学区）と関連のでき」と	主な唐稿村（学区）と関連のでき」と
七月二十一日、大地震が起き、西寺その他の寺社が転倒した。	七月五日の暴雨で羅城門が倒してからは再建された記録がない。【百練抄】より。観跋毘沙門天は東寺に移された。								
主な東寺、京都、と日本のでき」と	主な東寺、京都、と日本のでき」と	主な東寺、京都、と日本のでき」と	主な東寺、京都、と日本のでき」と	主な東寺、京都、と日本のでき」と	主な東寺、京都、と日本のでき」と	主な東寺、京都、と日本のでき」と	主な東寺、京都、と日本のでき」と	主な東寺、京都、と日本のでき」と	主な東寺、京都、と日本のでき」と
十一月に「京都」が地名として用いられた。	十一月に「京都」が地名として用いられた。	十一月に「京都」が地名として用いられた。	十一月に「京都」が地名として用いられた。	十一月に「京都」が地名として用いられた。	十一月に「京都」が地名として用いられた。	十一月に「京都」が地名として用いられた。	十一月に「京都」が地名として用いられた。	十一月に「京都」が地名として用いられた。	十一月に「京都」が地名として用いられた。
四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。	四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。	四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。	四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。	四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。	四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。	四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。	四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。	四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。	四月に、疫病が流行し、京中の病者、死者を整理し諸社に祈願する。
東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。	東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。	東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。	東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。	東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。	東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。	東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。	東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。	東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。	東寺の宝蔵が消した【東宝記】より。



花園公園の北側の道が旧九条大路で
千本通りより東に有る東寺の塔を見る。

観跋毘沙門天は羅城門の上に王城鎮護の象徴として安置されていたが、
羅城門倒壊後東寺に移された。



観跋毘沙門（国宝）



平安京初期の大内裏瓦

共に四ツ塚町の北側、芋久、
岡本正太郎氏より頂く



羅城門の軒丸瓦

時代	西暦	日本年号	主な唐橋村（学区）と関連のできごと
中世	平安時代	古代	時代
鎌倉時代		平安時代	
一、一五九	平治	一年	西寺に贈太后懿子の国忌をおくる。（師光年中行事）
一、一六七	任安	二年	【松尾社所蔵文書】に、四月松尾祭り延引、西大宮旅所あり、死人の故と記す。
"	"	"	綱所を仁和寺へ移す。
一、一七五	安元	元年	
一、一八〇	治承	四年	
一、一八一	養和	元年	
一、一八三	寿永	二年	
一、一八五	文治	元年	
一、一八九	五年	西寺に於て御読経が、三月十六日に行はれた【山棲記】に記す。	
一、一九〇	建久	元年	
一、一九一	"	五年	
一、一九二	"	二年	
一、一九三	三年	唐橋村の地名に經田塚、琵琶塚、杉塚、狐塚、高畠塚がある。	
一、一九四	二年	この頃には、唐橋村の村落が形成され、小字名も生れる。	
一、一九五	正治	元年	四月四日の【明月記】に、藤原定家が水無瀬から戻りに桂川を渡り、西寺の塔の前と日記に記されている。
一、一九六	承元	二年	西寺を西方寺と改称し、現在地（平垣町）に中興とす【西寺紀綱】。
一、一九七	元年	二年	承久の変（鎌倉幕府と朝廷との争い）の以後、莊園の支配が拡大し、唐橋村も数人の領主に支配された。
一、一九八	建保	四年	四月に朱雀大路での耕作を禁ずる。
一、一九九	建保	三年	松尾大社が焼けた。
元仁	貞応	四年	
"	元年	三年	
親鸞が、教行信証を著し、浄土真宗を開示する。			

杉塚



狐塚



道祖神



西寺（西方寺）

中世 鎌倉時代										時代
										西暦
一一二一	一一二六	一一三一	一一三七	一一四三	一一五三	一一五九	一一六五	一一七一	一一七七	一一八三
(北朝)元徳三年	正応元年	永仁元年	弘安元年	建治元年	元年	九年	七年	五年	三年	日本年号
一一二二	一一二七	一一三二	一一三八	一一四三	一一五〇	一一五七	一一六二	一一六八	一一七三	主な唐橋村(学区)と関連のできごと
一一二三	一一三二	一一三七	一一四二	一一四九	一一五五	一一六〇	一一六五	一一七〇	一一七五	紀伊の国よりのぼるとて、西寺の塔の霧にまぎれて云々。(明惠上人の記事)みえる(玉葉和歌集)
一一二四	一一三三	一一三八	一一四五	一一五七	一一六四	一一七〇	一一七五	一一七九	一一七八	十一月六日付【東寺百合文書】に(但好明寺御領寫字花園)と記される。
一一二五	一一三四	一一三九	一一五八	一一六一	一一六九	一一七四	一一七八	一一八一	一一七八	ついに西寺は東寺の末寺に転落。
一一二六	一一三五	一一三九	一一五六	一一六二	一一六九	一一七〇	一一七五	一一八〇	一一八一	この頃から唐橋村に六斎念佛踊りが行われたと思われる。
一一二七	一一三六	一一三九	一一五九	一一六三	一一七一	一一七九	一一八三	一一九〇	一一九一	道元が帰朝して、曹洞宗を開示する。
一一二八	一一三七	一一四〇	一一六〇	一一六七	一一七七	一一八七	一一九一	一一九五	一一九八	京中、飢餓と疫病と盜賊が横行し、西洞院室町の商家焼亡。
一一二九	一一三八	一一四一	一一六一	一一六八	一一七七	一一九一	一一九五	一一九九	一一九九	この年の前後は、天変地変や大火が多い。
一一三〇	一一三九	一一四二	一一六二	一一六九	一一七七	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	日蓮が、日蓮宗を開く。
一一三一	一一四〇	一一四三	一一六三	一一七一	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	十一月に親鸞が九十才で、没す。
一一三二	一一四一	一一四四	一一六四	一一七一	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	阿蘇山が噴火し、地震が起る。
一一三三	一一四二	一一四五	一一六五	一一七二	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	四月に、東寺の塔が炎上した。
一一三四	一一四三	一一四五	一一六六	一一七三	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	十一月に、東寺において、異國降伏を析る(元の国に対し)
一一三五	一一四四	一一四七	一一六七	一一七四	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	十月に、元が博多、その他に上陸したが、台風で逃げ帰る、「文永の役」と云う。
一一三六	一一四五	一一四八	一一六八	一一七五	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	この年、一遍が時宗を開く。
一一三七	一一四九	一一四九	一一六九	一一七六	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	東寺の塔婆を造替する。
一一三八	一一五〇	一一五〇	一一七一	一一七七	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	七月に元と高麗が兵船で博多に迫るが、大風雨で逃げ帰る。「弘安の役」と云う。
一一三九	一一五一	一一五二	一一七二	一一七八	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	四月に、北条時宗が三十四歳で没す。
一一四〇	一一五二	一一五三	一一七三	一一七九	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	八月に、一遍が五十一歳で没す。
一一四一	一一五三	一一五四	一一七四	一一七九	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	五月に、京都に洪水が出る。
一一四二	一一五四	一一五五	一一七五	一一七九	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	六月に、安芸国の莊園を東寺塔婆修理料所とする。
一一四三	一一五六	一一五九	一一七六	一一七九	一一七九	一一九九	一一九九	一一九九	一一九九	天皇家の世継ぎから南北朝の戦いが始まる。

春日社が有つてキリストンの墓碑
が有つたと言われる昔の春日杜



現在の鎌達稲荷社の東南に有つた

左は春日杜



朝日杜（旭日杜）右



コンドウ山

西寺跡

中世南北朝時代										鎌倉時代	時代	
室町時代											西暦	日本年号
一、四四五	一、四一〇	"	"	"	"	"	"	"	"	(北朝)元徳三年	主な唐橋村(学区)と関連のできると	
文安	嘉吉	応永二十七年	"	"	"	"	"	"	"	正慶二年	主な東寺、京都、と日本のできごと	
一年	元年	二十七年	七坪(花園町)	十四坪(芦辺町)	などの字名があつた。	五月の【八坂神社文書】に「東寺口」新闢が設けられると記される。	この頃に、唐橋村に、唐橋大納言の家があつたと云はれる。	七月に諸国で大地震、富士山頂が百余丈崩れる。	鎌倉幕府が滅亡する。			
一、四四一	一、四四一	"	【東寺百合文書】の土地証文類に、三坪(琵琶町)	十一月に、東寺が火事、西院と御影堂以下が焼失する。	九月十一日の【東寺百合文書】に、唐橋村に松尾大社の社領。	東寺の塔の供養が行はれる、九月足利尊氏、本陣を東寺に置く。	五月に、尊氏が東寺の西院で戦勝を祈願させる。	八月に、北朝が足利尊氏を征夷大将軍に補す。	六月に、東寺の塔が落雷で焼ける。			
一、四四五	一、四一〇	"	七坪(花園町)	前々年以来、大兩等で天下が大いに飢える。	十一月に、東寺の西院が修造を終る。	九月七日の大地震で東寺の講堂が傾むく。	五月に、尊氏が東寺の西院で戦勝を祈願させる。	八月に、北朝が足利尊氏を征夷大将軍に補す。	六月に、東寺の塔が落雷で焼ける。			
一、四四一	一、四四一	"	七坪(花園町)	阿蘇山が噴火する。	十一月に、東寺が火事、西院と御影堂以下が焼失する。	九月七日の大地震で東寺の講堂が傾むく。	五月に、尊氏が東寺の西院で戦勝を祈願させる。	八月に、北朝が足利尊氏を征夷大将軍に補す。	六月に、東寺の塔が落雷で焼ける。			
一、四四五	一、四一〇	"	七坪(花園町)	旱天で淀川が涸れ、翌年五条の河原で飢餓で施しを行う。	十月に南北朝の講和が成り、南朝の後龜山天皇が、以後、現在の京都御所になる。	九月七日の大地震で東寺の講堂が傾むく。	五月に、尊氏が東寺の西院で戦勝を祈願させる。	八月に、北朝が足利尊氏を征夷大将軍に補す。	六月に、東寺の塔が落雷で焼ける。			
一、四四一	一、四四一	"	七坪(花園町)	嵯峨の大覺寺において北朝の後小松天皇に神器を譲る。	十月に南北朝の講和が成り、南朝の後龜山天皇が、以後、現在の京都御所になる。	九月七日の大地震で東寺の講堂が傾むく。	五月に、尊氏が東寺の西院で戦勝を祈願させる。	八月に、北朝が足利尊氏を征夷大将軍に補す。	六月に、東寺の塔が落雷で焼ける。			

時代	西暦	日本年号	近世時代										主な唐橋村（学区）と関連のできごと
			天文										
一、五四四	天文十三年	元年	大永七年	七年	三年	二年	唐橋村も応仁の乱で、農村的性質に變つてゆく。						
一、五四三	天文十二年	元年	大永	"	永正二年	明応九年	長享七年	文明十八年	文明元年	文明元年	文明元年	文明元年	前年の飢饉と四月の大地震が京都で起り、余震が十一月迄続く。
一、五四二	天文二年	元年	一、五〇六	一、五〇五	一、五〇〇	一、四九八	一、四八八	一、四七八	一、四七一	一、四七七	一、四八六	一、四八六	五月に、徳政と号し、横行、十一月に土一揆で東寺の講堂を破壊す。
一、五四一	天文一年	元年	一、五二七	一、五二八	一、五二九	一、五三〇	一、五三一	一、五三二	一、五三三	一、五四三	一、五四四	一、五四五	十一月に、土一揆が東寺に乱入する。
													五月に、応仁の乱が始まり、京都で兵乱、百余町、三万余家。
													二条以北は、ことごとく焼亡（足利家の家督相続の争い）。
													二月に東寺の僧徒が堂舎を破壊して売却した。
													九月に櫻島が噴火して死者が多く出た。
													十一月に、応仁の乱が終わるが、京都は燒野原の如くになる。
													九月に、徳政一揆が起り東寺の金堂以下を焼いた。
													八月に、大地震により浜名湖が外海に通する。
													七月に、京都大火で二万五千戸が消失する。
													七月に、京都で益踊りが流行し、幕府が禁ずる。
													東寺に足利義晴が陣をしげていた。
													七月京都に雨が無く、十一月嚴寒で琵琶湖が凍る。
													八月に、ポルトガル船が種子島に着き、鉄砲を伝える。
													七月に洪水で、社寺、人家、人馬が大流亡し、堺の舟が



六斎念仏
（精舎の六斎念仏）

公民館内に有る神輿倉に現在も有ります。
毎年、矢取地蔵堂前にて六斎念仏踊りが有った



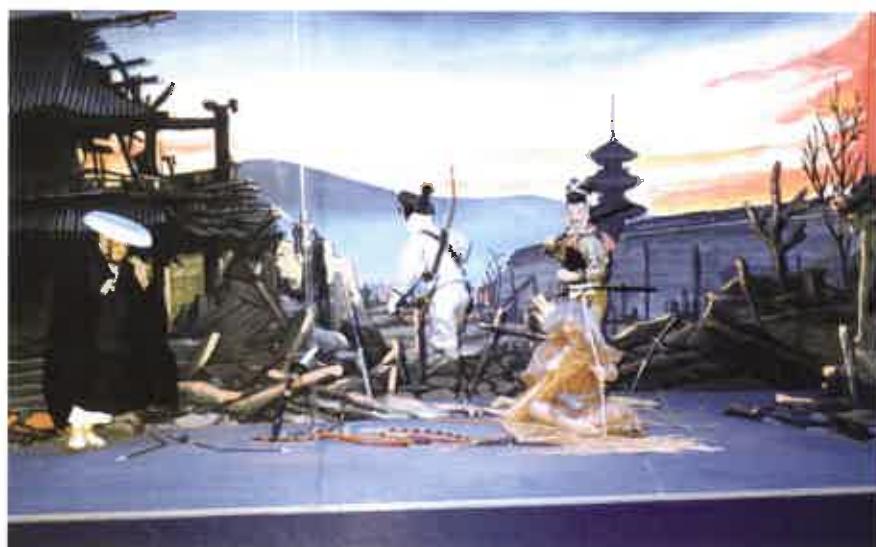
平鼓



太鼓



東寺口、西国街道新関
御前通の九条（唐道）



応仁の乱の絵

時代	西暦	日本年号	近世									
			安土・桃山時代					室町時代				
一、五九六	"	一、五九四	一、五九二	一、五九一	一、五九〇	一、五八一	"	一、五七三	天正	元年	一、五七一	西暦
慶長	"	"	文禄	"	"	"	"	"	元年	元年	元龜	日本年号
元年	"	"	元年	"	"	"	"	"	元年	二年	二年	主な唐橋村(学区)と関連のできごと
<p>以後の御検地に唐橋村の鎮守、道祖の宮と記されている。</p> <p>足利時代までは、西寺が所領を保有しており、破寺の寺として、余端を保つていた。</p> <p>五月二十七日付「ルイス・フロイス」の書簡に、織田信長に焼かれた村名に、西唐橋村の名が出ています。</p> <p>豊臣秀吉のお土居建設で「西側の右京は洛外となり、野道なり」と【山州名跡志】に記されている。</p> <p>京都の唐橋村は、洛外となり、東と西に人家が少しあり、一面が田畠に変りました。</p> <p>お土居の西に外堀（セリ田）があり、その西に上ヶ丸溝（現在の鍋取川）となる。</p> <p>秀吉が一月に征明軍を編成し、四月に釜山に上陸す（文禄の役）伏見城（指月城）が完成した。</p> <p>東寺の塔を供養する。</p> <p>東寺の講堂等が大破する。</p> <p>九月に、大地震が起り、余震が数ヶ月に及ぶ。</p>												
<p>主な東寺、京都、と日本でのできごと</p> <p>京都、東寺の門前に至ると云う大水でした。</p> <p>七月に、ザビエルが鹿児島に上陸し、キリスト教を伝来する。</p> <p>四月に、東寺の塔が落雷で焼失する。</p> <p>十一月に、東寺で塔の奉加のため、大黒天を、開帳する。</p> <p>織田信長入京し、東寺を宿所とする。</p> <p>七月に、京都の町人が舞踊遊行をする。</p> <p>七月に、足利義昭が、織田信長に攻められ、室町幕府が滅びる。</p>												

時代	西暦	日本年号	近世江戸時代												
			一、六八八	一、六八九	一、六九〇	一、七〇一	一、七〇二	一、七〇三	一、七〇四	一、七〇五	一、七〇六	一、七〇七	一、七〇八	一、七〇九	
享保八年	元年	正徳三年	元年	正徳四年	宝永二年	宝永四年	宝永五年	元年	正徳五年	正徳六年	正徳七年	正徳八年	正徳九年	正徳十年	
享保九年	四年	三年	五年	二、七一〇	二、七一一	二、七一二	二、七一三	二、七一四	二、七一五	二、七一六	二、七一七	二、七一八	二、七一九	二、七二〇	
享保十三年	八年	元年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年

時代

西暦

日本年号

主な唐橋村（学区）と関連のできごと

主な東寺、京都、と日本のできごと

七条家料、倉橋家料、千種家料、幕府領主代官等の支配があった。
西唐橋村を本村とし、東唐橋村を支村に分村した。

七月に、京中諸山で「大文字焼」を行う。

八月に、京都で雷電、烈風、大雨で、十二月に大火で三百軒を焼く。

五月に、徳川綱吉の請で六孫王社に権現号を授け、正一位を贈る。

十一月に、赤穂の遭臣、大石等が主君浅野の復仇をした。

十一月に、関東大震災で、江戸等、大火と津波、小田原城が大破す。

二、八月に、京諸国より伊勢御陰参りの者、日々数万人に及ぶ。

十月に、南海、東海で大地震一万戸倒れ、死者三阡人。

十一月に、富士山噴火（宝永山噴出）降灰が一～二寸ある。

三月に、京都で大火、町数四一七、家二三、三七〇戸焼失、七月に大洪水。

【山城名勝志巻七】に、西寺の金堂（講堂）の跡、僅に田の間に残る。
今、松尾祭の日、神供を備る所なりと記す、又
今、梅小路村有り、大日堂、此の像、西寺、金堂、木仏云々と記す、又
金堂山（護堂跡）に、守敏塚が有つたとも云はれる。
現在の鎌達稻荷神社の東南に「春日社」が有り「キリシタン」の墓碑が有つたと言われる。

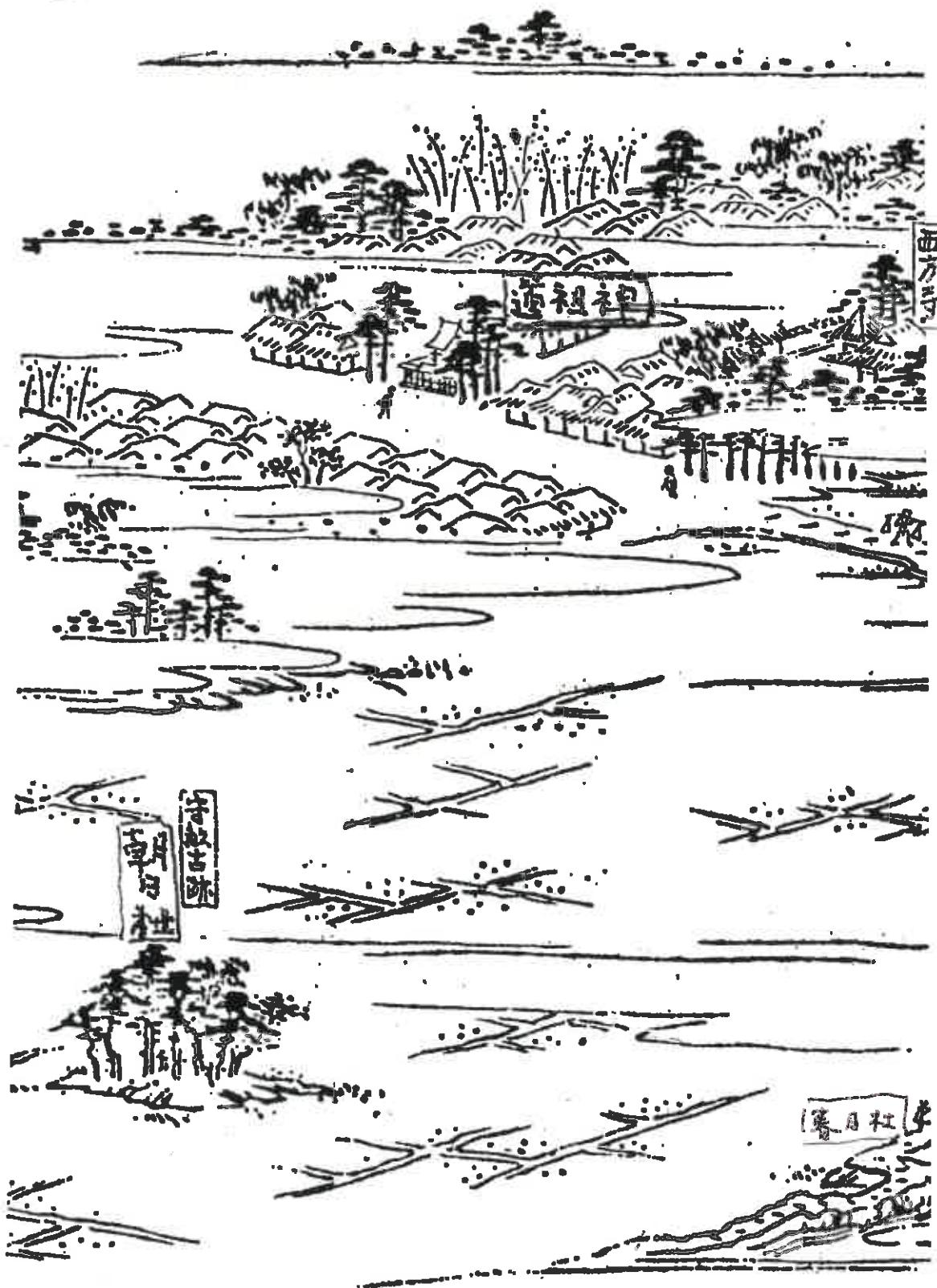
三月に、京都で大火、一、七五〇戸を焼き、死者九十人。

徳川吉宗が享保の改革に着手する。

当時の繪図に唐橋村の川が、井出、鳥羽川、上ヶ丸溝、芦辺溝、志うけ田溝、経田溝、ビワ塙溝、六反田溝、御し坪溝、紙屋川を記す。

水口（鳥羽川）と堀川で井堰論任候、唐橋村と、吉祥院村、上鳥羽村、四ツ塙村が争そう。
農業用水の堀川筋で当村、西七条村、朱雀村、西塩小路村、梅小路村、八条村が、中堂寺村と相論する、以後五回も有り。

西
古
都



松尾
祭礼
舟渡御

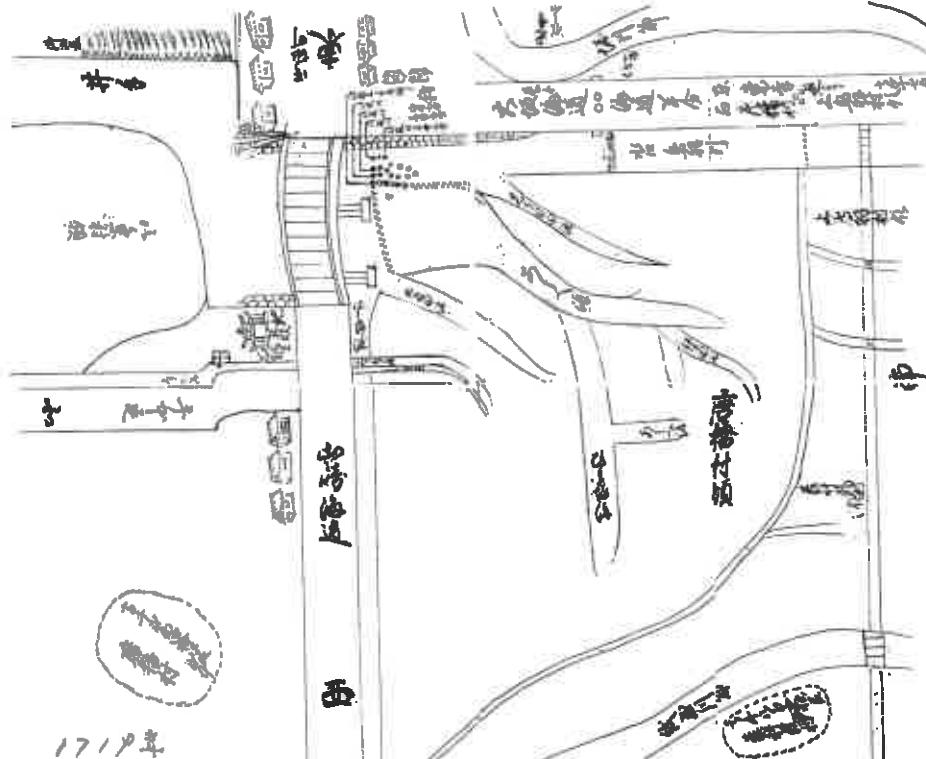




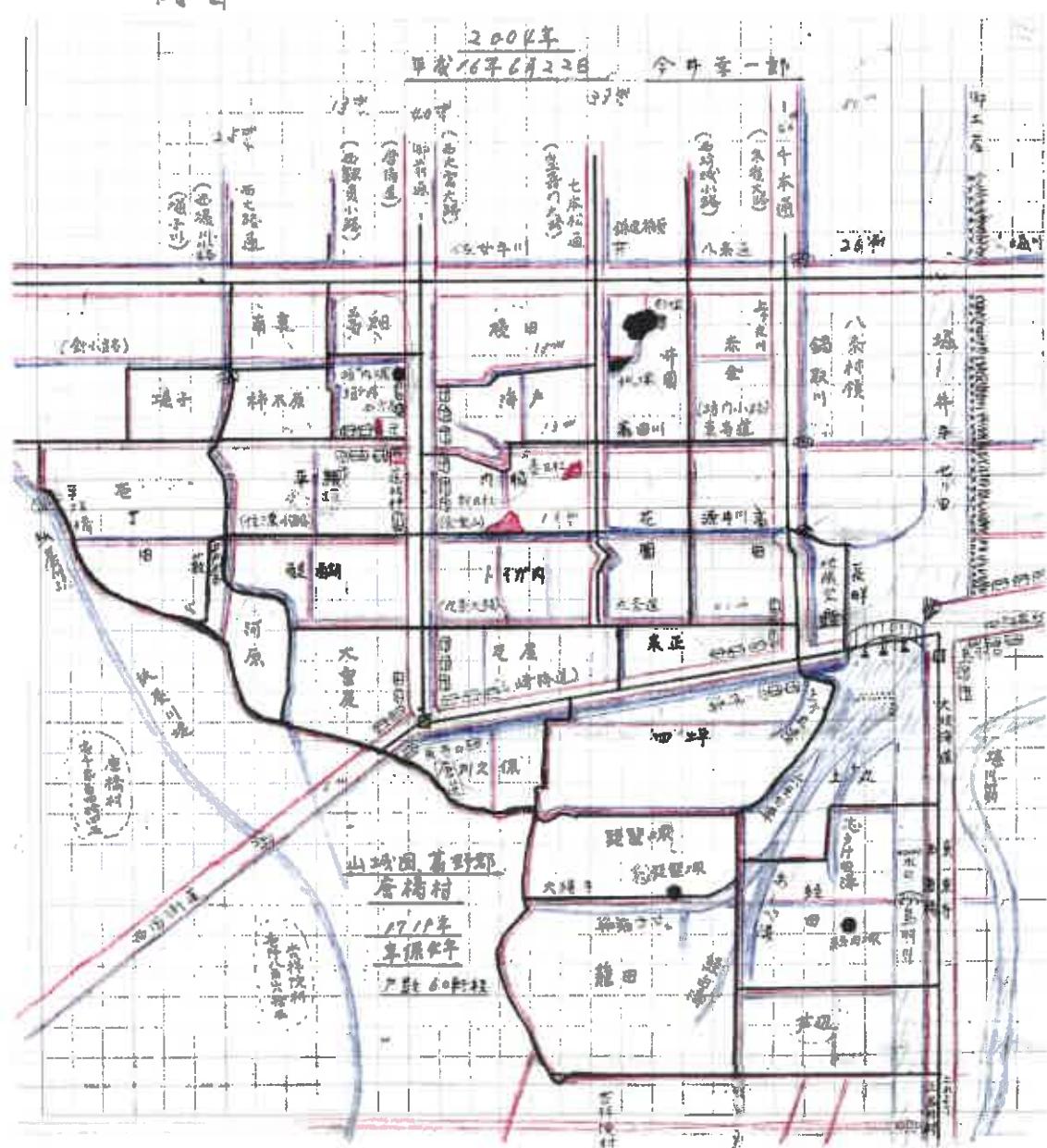
写真は昭和 40 年頃で旭日の社（朝日社）の北側
からで神輿の南側で祭典が行われた



御前通り、八条上る、東側の梅林寺の正面大日堂
1711 年（正徳 元年）



1719年
享保四年
繪図



時代	西暦	日本年号	主な唐橋村(学区)と関連のできごと
			主な東寺、京都、と日本のできごと
一、七二[九]	享保十四年	唐橋村の石高一四四石。東唐橋村の百姓が東寺廻りに居住していた。	京都で大火、三、七九八軒を焼き、死者一二〇人に及ぶ。
一、七三〇	"十五年		五月に、京都六孫王(源経基)神社の造営に、清和源氏の大名に、勅進することを許す。
一、七三一	"十七年		
一、七四一	寛保二年		十一月に、京都の平地で積雪が一尺弱も積る。
一、七四三	"三年	六月の唐橋村明細帳【竹内新之丞文書】に、御旅所、西七条村。 神興七社内一社、唐橋村預かりと記し。	
一、七四四	延享元年	農業が中心で田方八十六%が二毛作で、瓜、芋、茄子、藍、米、クワイ等で、畑では、大麦、小麦、大豆、なたね、ソバ、等を栽培していた。 (現在の西寺)を旦那寺淨土宗無本寺西方寺と記す。	
一、七四五	延享三年	当村の「カマド」数六十六軒、人數男百六十三人、女七十六人とある。	
一、七五〇	宝暦元年	民業は、農業六十四戸、漁獵六戸、工匠四戸、商業八戸と記す。	
一、七五七	七年	当村西寺古跡無年貢地芝東西十五間南北十六間但氏神松尾明神、神事所、	
一、七六四	八年	例年四月祭礼の節、神興北の所之神幸成、松尾社家と、当村百姓之内神役之者、御供物調達任神事相勧申候と記される。	
一、七七〇	八年	この年、江戸の神田に、天文台を設立する。	
一、七七一	八年	八月に、京都大雷電、百余ヶ所に落雷、二条城天守閣を焼失する。	
一、七七九	八年	十一月に、六孫王社で源経基の八百回忌法要会を営む。	
安永	"	十二月に、京都に大雪、平地で一尺四寸(寛保一年以来始めて)。	
		七月に、琵琶湖、一丈も減水し、京都大文字焼をやめる。	
		一月に、京都積雪一尺、五月に伊勢御陰参りであふれる。	
		十月に、桜島が噴火し、住民大半死ぬ、又、三原山が噴火する。	

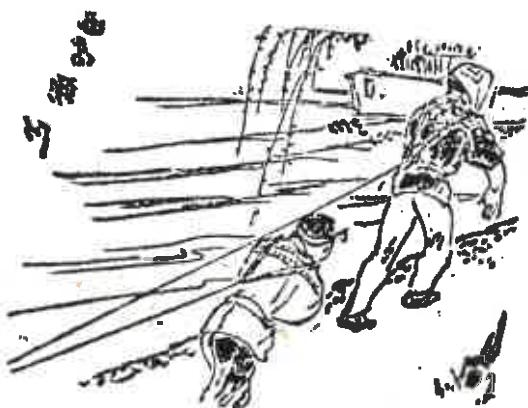
時代	西 暦	日本年号	主な唐橋村（学区）と関連のできごと
近世江戸時代	一、七八三 一、七八六 一、七八八 一、八〇〇 一、八一八 一、八二三 一、八二九 一、八三二 一、八三九 一、八四四 一、八五一 一、八五四 一、八五五 一、八五六 一、八六二 文久	天明三年 六年 八年 八年 元年 四年 十二年 三年 十年 元年 四年 嘉永四年 元年 五年 二年 五年 二年 一年	この頃より西之庄村の総奉公が朝日社の祭典に総奉公を献上した。 この頃に現在の神輿が作られたと思われる。 この頃に、浅間山噴火し、死者二万人、飢渴のために一揆が起る。 この年、大凶作、収穫は三分の一、天明の大飢饉。 一月に、京都大火、御所、二条城等神社二二〇、寺院九二八、家数十八万三千戸、土蔵八、一〇〇、市民に米三千俵、銀六十貫を貸す。 四月に、京都愛宕神社が焼亡する。 この年から富士山に女人の登山を許した。 七月に、伊能忠敬が大日本地図を完成する。 七月に、祇園、二条新地、北野等に遊郭の設置を許す。 七月に、日章旗を、日本國の總旗印とする。 八月に、日英、十一月に、日露が和親条約を結ぶ。 一月に、日米、十一月に、日蘭が和親条約を結ぶ。 六月に、日米、七月に日蘭、日露、九月に、日仏が修好通商条約に、調印したが、七月に天皇が調印に反対して讓位を望む。 十一月に、京都市中を、無賴の徒が横行するので、萩と、高知の二藩に夜警させる。 庄屋、惣助が斬られています。



西平垣町



大宮社 神輿の四面に鏡





西寺（西方寺）



昔は唐橋神事青年会



江戸時代末期頃の東寺西門通り御前西入る南側、
農業、細江正夫宅

時代	西暦	日本年号	近代・現代		近世江戸時代	
			明治時代	時代	明治	慶応
一、八六三	文久三年	主な唐橋村（学区）と関連のできごと	大宮社、神奥の鳴鉄の木箱に記されている。	西高瀬川が開通しました。	六月頃は新撰組が活動する。	主な東寺、京都、と日本のできごと
一、八六四	元治元年				十月に、徳川慶喜が大政奉還し、勅許された。	
一、八六七	三年				十一月に、王政復古の大号令が出る。	
"	元年				三月に神仏分離令を出す（廢仏毀釈運動が起る）。	
一、八六八	二年				七月に江戸を東京と改称する。八月に明治天皇が即位する。	
"	四年				十月二十一日に、東寺の八幡宮が焼失した。	
一、八六九	五年				三月に江戸を東京と改め、京都から遷都する。	
"	六年					
一、八七一	"					
一、八七二	"					
"	七年					
"	八年					
"	九年					
"	十年					
一、八七三						
一、八七六						
"						
一、八七七						
"						
唐橋村地図に御前通を「唐橋通」と記す、(井上文男)						
この年までは神奥は御旅所から「唐橋通」を南之唐橋村に直行していた。						
【府誌】に道祖神社の創立詳らう猿田彦命を祭る、毎年十一月十六日にお火焚き祭が行われる。「現在は、十一月十六日前後の日曜日」						
唐橋村の戸数九十五戸、人数は、男二百十八人、女三百四十三人。						
唐橋村地図に御前通を「唐橋通」と記す、(井上文男)	一月に徵兵令が発布。この年に、初めて野球を輸入した。					
この年までは神奥は御旅所から「唐橋通」を南之唐橋村に直行していた。	九月に、国鉄の京都～向日町が開通した。					
【府誌】に道祖神社の創立詳らう猿田彦命を祭る、毎年十一月十六日にお火焚き祭が行われる。「現在は、十一月十六日前後の日曜日」	一月に、西南戦争が起き、九月に終結した、政府軍と西郷軍との戦い。					
唐橋村の戸数九十五戸、人数は、男二百十八人、女三百四十三人。	一月に京都駅が竣工する。					

千本通り（鳥羽作り道）の
九条鳥羽口に新関



道祖神。

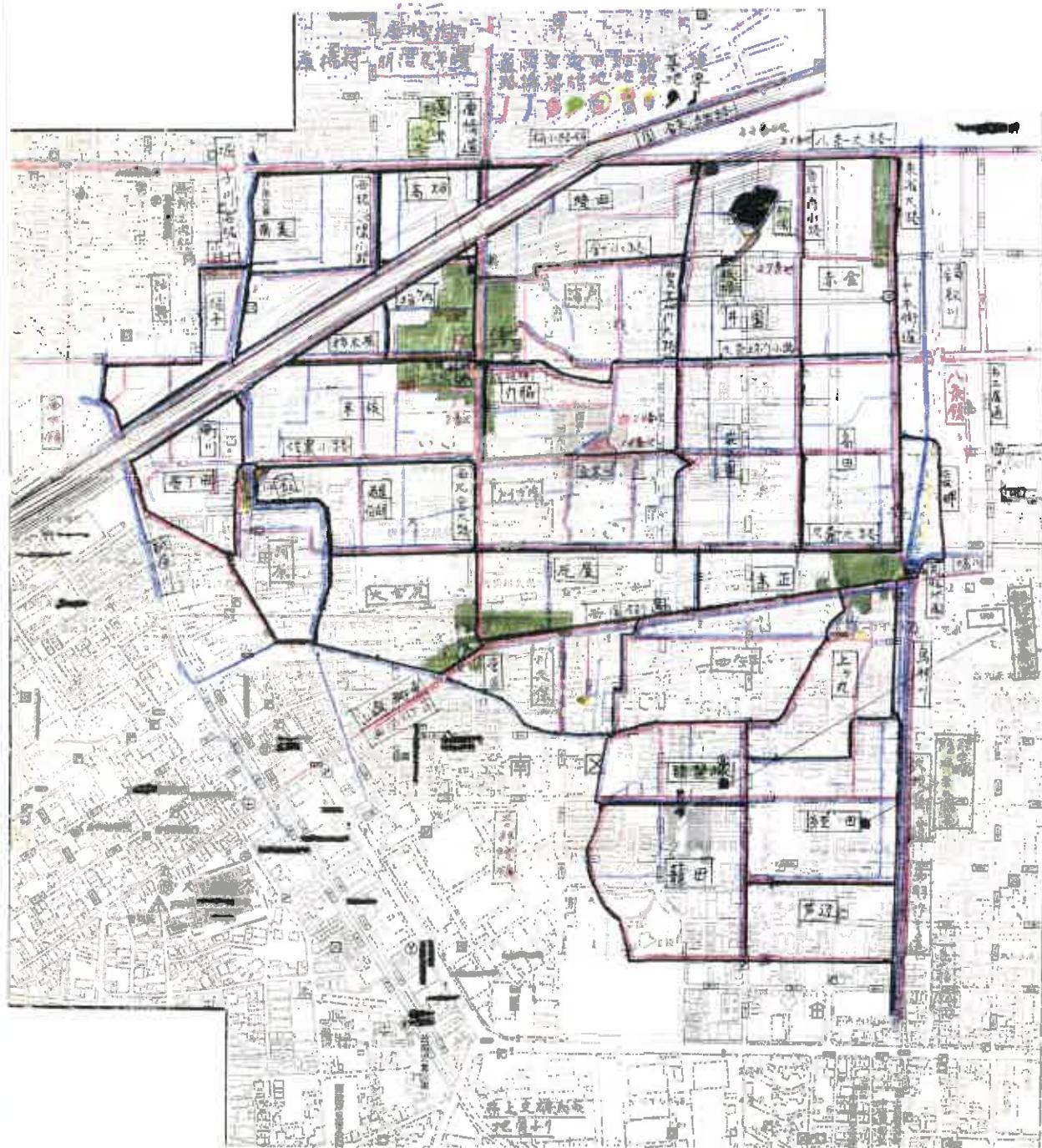
松尾祭の神幸祭の出立
還幸祭



道祖神のお火焚き祭
毎年十一月十六日

現在は十六日に近い日曜日





時代	西暦	日本年号	主な唐橋村（学区）と関連のできごと
近代・現代	明治十年	一、八七七	総計、四百六十一人、荷車四輪、大七車一、と記す。
	十二年	一、八七八	唐橋村は、西七条と共に、十一ヶ村で、第四番学区を構成しています。
	十四年	一、八七九	唐橋小学校が、現在の公民館にありました。
	十八年	一、八八一	三月三十日に、矢取地蔵の復旧願を、信徒連署で知事に提出する。
	十九年	一、八八五	唐橋村、第七十四番戸、教王護国寺塔頭地蔵寺と称す（吉原家文書）
	二十年	一、八八六	唐橋村の戸数九十八、人口四百六十一人、牛一頭、農業六十四戸、漁網六戸、商業八戸、等でした。
	二十三年	一、八八八	七条村、大字唐橋となりました。
	二十六年	一、八八九	唐橋村字門脇（西寺町北部）に、天理教唐橋文教会ができる。
	二十七年	一、八九〇	唐橋村の、西方寺を、西寺に、寺号を復仇した【西寺紀綱】より。
	二十八年	一、八九三	羅城門遺跡の石碑が（花園公園）に建立された。
	二十九年	一、八九四	唐橋村の、西方寺を、西寺に、寺号を復仇した【西寺紀綱】より。
	三十年	一、八九五	唐橋村字門脇（西寺町北部）に、天理教唐橋文教会ができる。
	三十五年	一、八九七	唐橋村の、西方寺を、西寺に、寺号を復仇した【西寺紀綱】より。
	三十六年	一、八九八	羅城門遺跡の石碑が（花園公園）に建立された。
	三十七年	一、九〇二	唐橋村の、西方寺を、西寺に、寺号を復仇した【西寺紀綱】より。
	三十八年	一、九〇四	唐橋村の、西方寺を、西寺に、寺号を復仇した【西寺紀綱】より。
	三十九年	一、九〇五	唐橋村の、西方寺を、西寺に、寺号を復仇した【西寺紀綱】より。
八月に、全國の人口、三四三三万八四〇〇人と発表する。	八月に、全国の人口、三四三三万八四〇〇人と発表する。	八月に、全国の人口、三四三三万八四〇〇人と発表する。	八月に、全国の人口、三四三三万八四〇〇人と発表する。
六月に、招魂社を、靖国神社と改称する。	六月に、招魂社を、靖国神社と改称する。	六月に、招魂社を、靖国神社と改称する。	六月に、招魂社を、靖国神社と改称する。
二月に、対露宣戰布告す、「ロシヤ」が南下を止めないため。	二月に、対露宣戰布告す、「ロシヤ」が南下を止めないため。	二月に、対露宣戰布告す、「ロシヤ」が南下を止めないため。	二月に、対露宣戰布告す、「ロシヤ」が南下を止めないため。
九月に、日露講和条約を調印し、日露戰争が終る。	九月に、日露講和条約を調印し、日露戰争が終る。	九月に、日露講和条約を調印し、日露戰争が終る。	九月に、日露講和条約を調印し、日露戰争が終る。



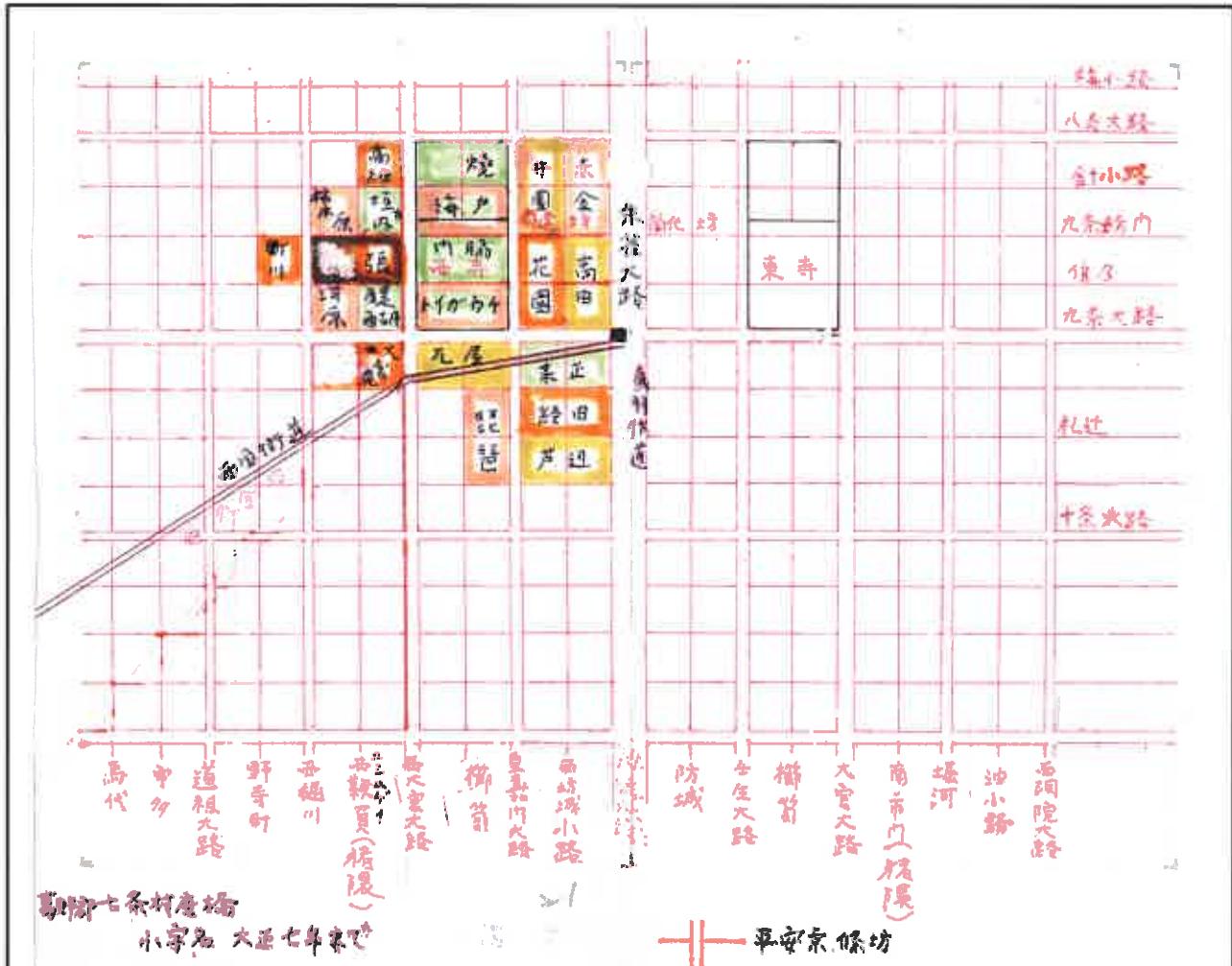
天理教唐橋分教会



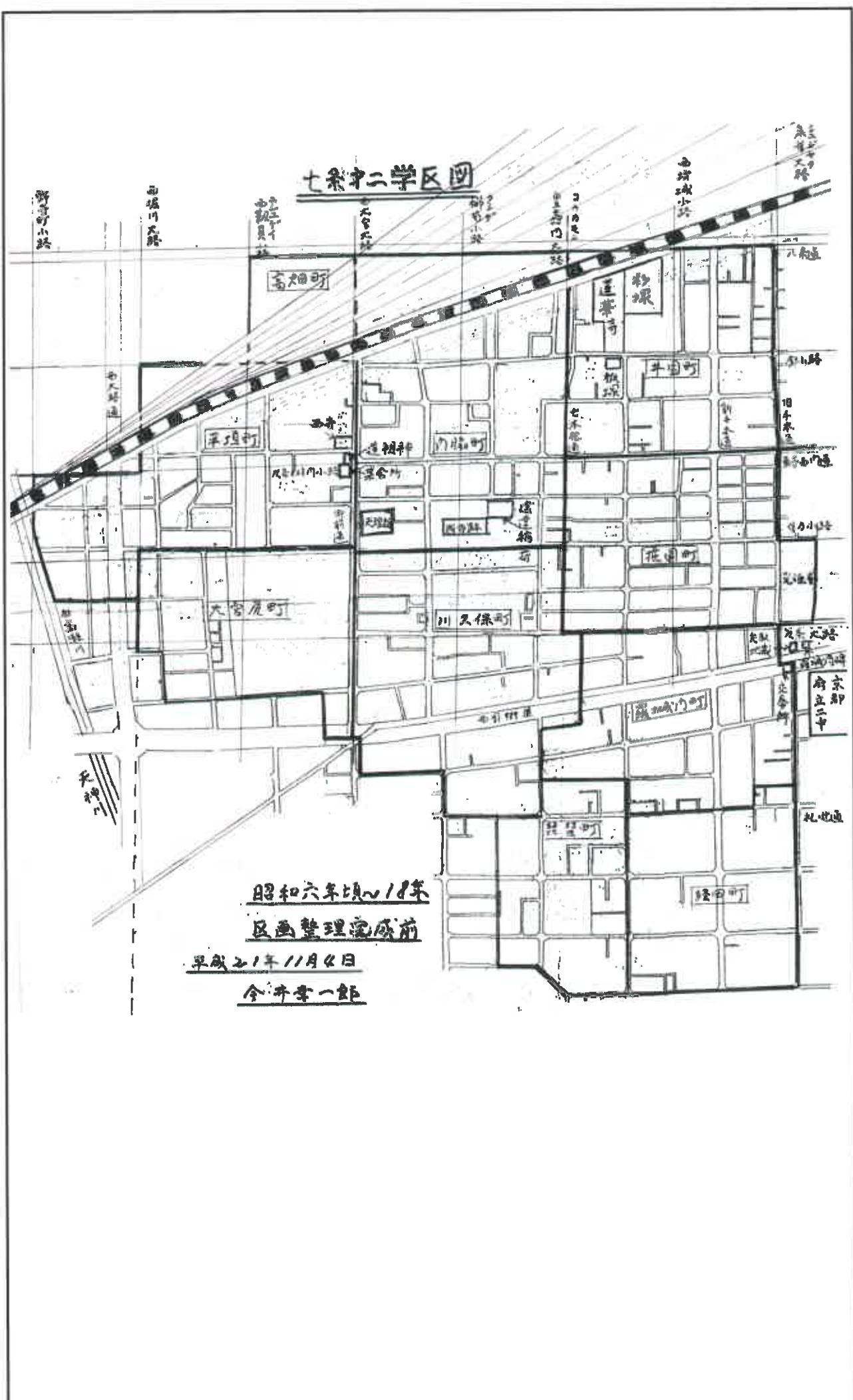
実は、この地に唐橋小学校がありました。今の公民館です。この写真をごらんください。明治十四年、学校建設出資の証であり、十八年、十九年の卒業証書です。「唐橋小学校」の名がおわかりでしょう。



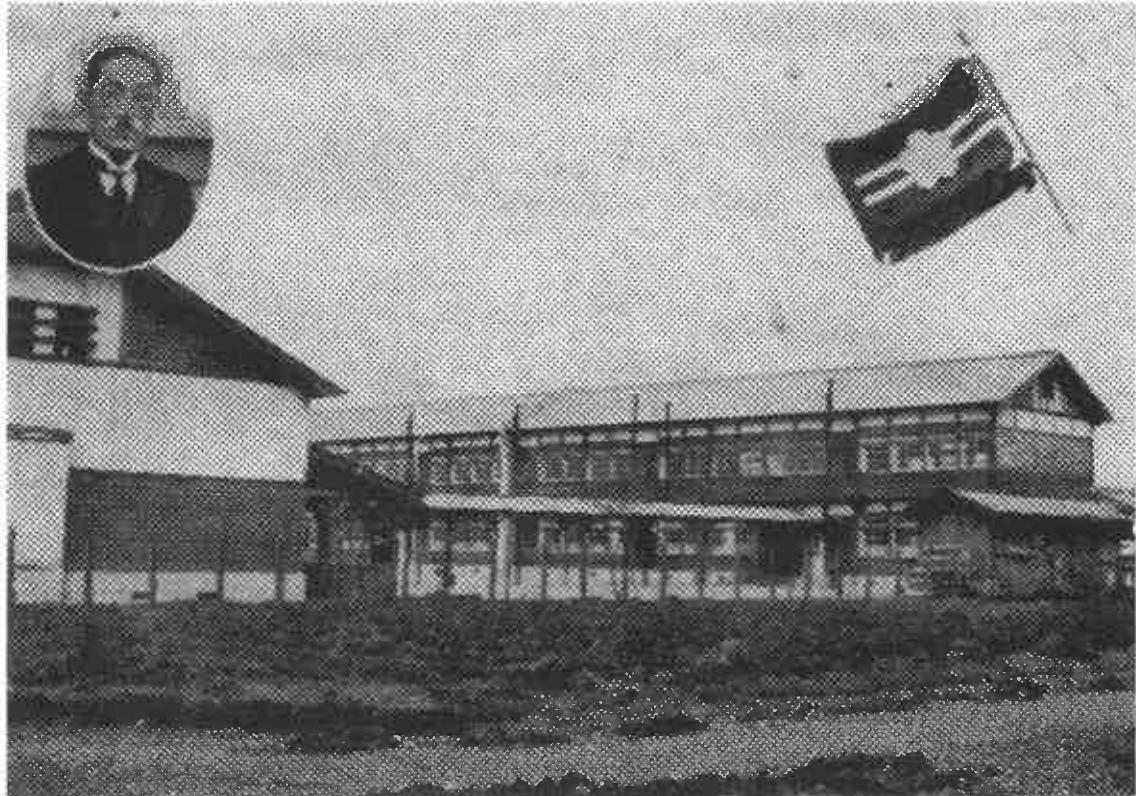
時代	西暦	日本年号	主な唐橋村(学区)と関連のできごと
昭和時代	近代・現代		
	大正時代	明治時代	
一、九二〇 一、九二一 一、九二二 一、九二三 一、九二四 一、九二五 一、九二六 一、九二七 一、九二八 一、九二九 一、九三〇 昭和三年 五年	一、九一〇 一、九一一 一、九一二 一、九一三 一、九一四 一、九一五 一、九一六 一、九一七 一、九一八 一、九一九 一、九二〇 一、九二一 一、九二二 一、九二三 一、九二四 一、九二五 一、九二六 一、九二七 一、九二八 一、九二九 一、九三〇 昭和三年 十五年 十二年 十年 九年 八年 七年 六年 五年 四年 三年	一、九一〇 一、九一一 一、九一二 一、九一三 一、九一四 一、九一五 一、九一六 一、九一七 一、九一八 一、九一九 一、九二〇 一、九二一 一、九二二 一、九二三 一、九二四 一、九二五 一、九二六 一、九二七 一、九二八 一、九二九 一、九三〇 大正三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年 十年 十一月 十二年 十五年	明治四十三年 明治四十四年 明治四十五年 鎌達稻荷神社が梅小路村小頭から唐橋村門脇(西寺町東部)に移築した。 国鉄の拡幅で立退きのため蓮華寺が梅小路駅の建設で、八条村小字坊門から、唐橋村小字井園(北井園町)に新築移転した。 唐橋村が京都市に編入され、下京区第三十六番組となる。 西寺跡を、梅原末治博士が始めて調査する。 【京都府誌】に、御前通りに面して、わずかに民家が点在し、西寺の森が台地上に残っている程度と記されている。 三月三日付で史跡西寺跡として、文化庁の指定を受ける。 西寺跡の石碑が金堂跡(講堂跡)に建てられた。 唐橋村は、七条学区となる。 八月に、韓国併合で、日韓条約を調印する。 一月に、清朝が滅び、中華民国が成立する。 七月に、明治天皇が没す。 一月に、桜島大噴火、大隅と地続きになる。 七月に、第一次世界大戦勃発し、八月にドイツに宣戦布告する。 八月に、第一回全国中学校の野球大会が始まる。 十一月に大正天皇が京都御所で即位。 八月に、富山県に始まり、全国で米騒動が起る。 ロシヤの革命で、日本がシベリアに出兵する。 四月に、第一次世界大戦が終る、パリ講和条約。 十月に国勢調査。 京都府人口 百一十八万七千百四十八人 京都市人口 五十九万三千五百人 日本国内人口 五千五百九十六万三千五十三人 九月に、関東大震災が起る、死者と不明は十三万人余り。 十一月に京都御所で昭和天皇が即位。 世界中が、経済、産業で大恐慌になる、前後一二三年続く。 十二月二十一日に、東寺の食堂が焼ける。



西寺の軒丸瓦と軒平瓦



時代	西暦	日本年号	主な唐橋村(学区)と関連のできごと
時代	西暦	日本年号	主な東寺、京都、と日本のできごと
昭和五年	一九三〇	昭和五年	唐橋学区で、西寺区画整理組合が発足し、荒地や田畠が碁盤の目に整備され、昔からの道路は拡幅されてゆきます。
昭和六年	一九三一	昭和六年	農業用水や、宅地の溝に蓋がされ、下水道が出来、田畠には、揚水ポンプが設置され、川は西高瀬川だけが残っています。
昭和七年	一九三二	昭和七年	唐橋学区で、西寺区画整理組合が発足し、荒地や田畠が碁盤の目に整備され、昔からの道路は拡幅されてゆきます。
昭和八年	一九三三	昭和八年	十一月四日に、現在地に分校として、七条第二尋常小学校が開校した。
昭和九年	一九三四	昭和九年	光徳寺が、高田町六部に設立する、九月に、室戸台風で唐橋学区も被害が多く、関西では死者、不明者が三千人余り。
昭和十年	一九三五	昭和十年	天理教姫京分教会が、堺町に設立する。
昭和十一年	一九三六	昭和十一年	京都市立第一工業学校が現在地に開校し、目立った建物だった。
昭和十二年	一九三七	昭和十二年	以前より千本通り九条から東寺西門通り迄夜店が出ていた。
昭和十三年	一九三八	昭和十三年	五月七日に、市電が九条大宮から西大路九条迄を開通した。
昭和十四年	一九三九	昭和十四年	九月に、国鉄西大路駅が完成する。
昭和十五年	一九四〇	昭和十五年	西大路の国鉄下に「ガード」が完成し、市電が十一月に七条と九条を結んだ。この頃から神輿は西大路から唐橋に向かう。市バスが府立二中前から吉祥院天満宮まで延長した。
昭和十六年	一九四一	昭和十六年	五月に、「ノモンハン」で、ソ連、外蒙軍と衝突し、日本軍が大打撃を受ける。
昭和十七年	一九四二	昭和十七年	九月に、日独伊の三国が軍事同盟を結ぶ。
昭和十八年	一九四三	昭和十八年	五月に、満州國の建国を宣言する、五月には陸海軍の将校が、首相や内大臣を襲撃する、五十五事件。
昭和十九年	一九四四	昭和十九年	三月に、満州からの撤退を要求され、國際連盟を脱退する。
昭和二十年	一九四五	昭和二十年	三月に三陸地方、大地震、大津波。死者一、五〇〇人余り。
昭和二十一年	一九五〇	昭和二十一年	春に、東寺の食堂が原形に繕される。
昭和二十二年	一九五一	昭和二十二年	六月に豪雨により市内のほとんどの河川が洪水を起こした。
昭和二十三年	一九五二	昭和二十三年	十一月に、海軍軍縮条約を廃棄する。
昭和二十四年	一九五三	昭和二十四年	五月に、皇道派の青年将校がクーデターを起す、二二六事件。
昭和二十五年	一九五四	昭和二十五年	七月に、北京郊外で、日中両軍が衝突する、日中戦争開始する。
昭和二十六年	一九五五	昭和二十六年	五月に、「ノモンハン」で、ソ連、外蒙軍と衝突し、日本軍が大打撃を受ける。
昭和二十七年	一九五六	昭和二十七年	九月に、日独伊の三国が軍事同盟を結ぶ。
昭和二十八年	一九五七	昭和二十八年	五月に、「ノモンハン」で、ソ連、外蒙軍と衝突し、日本軍が大打撃を受ける。
昭和二十九年	一九五八	昭和二十九年	九月に、日独伊の三国が軍事同盟を結ぶ。
昭和三十一年	一九五九	昭和三十一年	五月に、「ノモンハン」で、ソ連、外蒙軍と衝突し、日本軍が大打撃を受ける。
昭和三十二年	一九六〇	昭和三十二年	五月に、「ノモンハン」で、ソ連、外蒙軍と衝突し、日本軍が大打撃を受ける。



(創立当時の学校全景と初代伊東校長)

(一)

校 歌

千年の都 平安の
朱雀大路に 咲き匂う
文化の花の 香をしたい
われらは集う 唐橋校

(二)

いらかそびえし 羅城門
西寺のがらん 栄えし跡
唐 外国と 結ぶ道
ゆかりに学ぶ 唐橋校

(三)

古き都に つちからし
力 新たに いま立ちて
清く明かるく すこやかに
われらは励む 唐橋校

1944年昭和19年以後の 唐橋学区略図



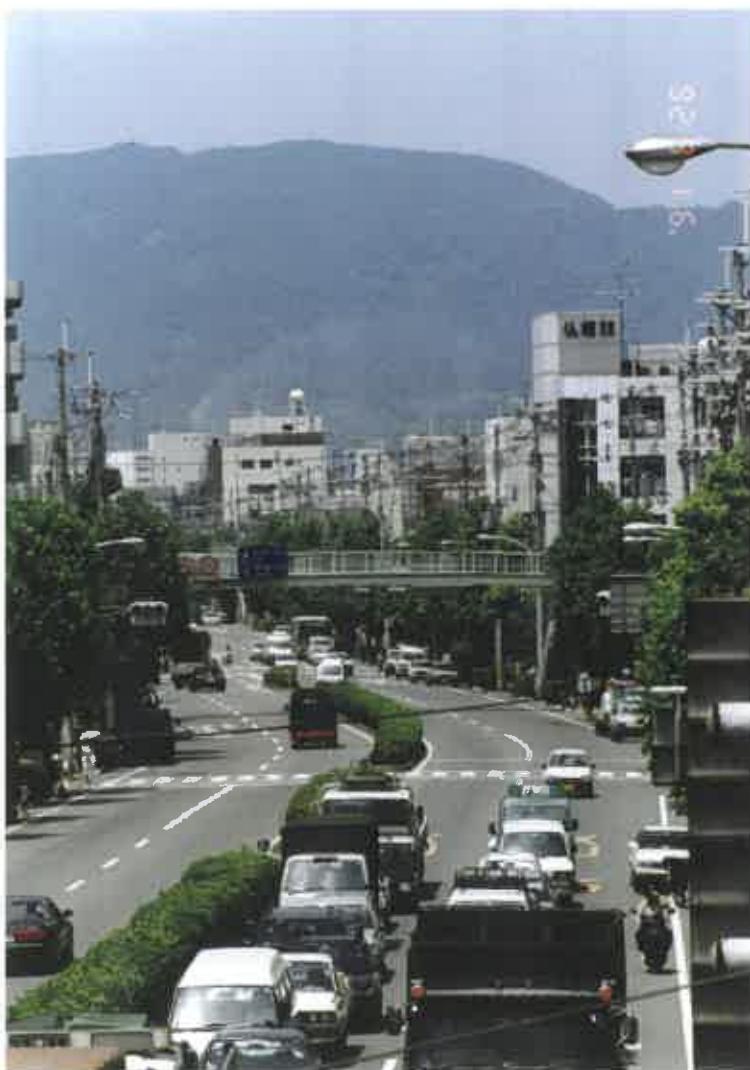
洛正山 光德寺

時代	西暦	日本年号	主な唐橋村(学区)と関連のできごと
近・現代	昭和・時代	昭和・時代	
一、九四一	昭和十六年	内務省訓令で、町内会作りで、七条第二学区となる。	
一、九四二	" "	" "	
一、九四三	昭和十七年		
一、九四四	" "	" "	唐橋の区画整理が終り、現在の町割と町名が形成された。
一、九四五	" "	" "	共栄保育園が、高田町六部に開園した。
一、九四六	" "	" "	
一、九四七	" "	" "	
一、九四八	" "	" "	唐橋の区画整理が終り、現在の町割と町名が形成された。
一、九四九	" "	" "	米、英、蘭が日本軍の全面撤退を要求したために起る、十一月八日に日本軍、ハワイ真珠湾空襲。
一、九五〇	" "	" "	十一月、食料、衣料の配給制度を実施する。
一、九五一	" "	" "	十一月、関門海底トンネルが開通する。
一、九五二	" "	" "	十一月八日、東海地方に強震と大津波が起り、死者九九八人。
二十七年	二十六年		十一月、B29東京初空襲。
			十二月、天皇が神格否定を宣言する。
			一月、新憲法を公布する。
			二月、米軍が沖縄に上陸す、八月ソ連が対日宣戦布告する。
			三月、広島と長崎に原子爆弾を投下する。
			四月、天皇が連合国に、無条件降伏した。
			五月、天皇が神格否定を宣言する。
			六月、福井地方に大地震。死者三、七六九人。
			七月、大韓民国、九月に、朝鮮人民共和国が、共に成立した。
			八月、北朝鮮軍が南下し、朝鮮戦争が始まる。
			九月、金閣寺が放火で全焼し、十一月に京都驛が全焼した。
			十月、中華人民共和国が成立し、十一月に国府が台湾に移転す。
			十一月、湯川秀樹博士が日本人で初のノーベル賞受賞。
			十二月、北朝鮮軍が南下し、朝鮮戦争が始まる。
			一月、シェーン台風で、京都全域が大被害を受けた。
			二月、対日講和条約と、日米安全保障条約に調印する。
			第三代目の京都駅が竣工した。

時代	西暦	日本年号	近代・現代								
			昭和	和時	現代	代	一、九五五	一、九五四	一、九五四	一、九五三	
			一、九五五	"	"	"	"	"	"	昭和二十八年	
			一、九五六	"	"	"	"	"	"	一十九年	
			一、九五七	"	"	"	"	"	"	一九年	
			一、九五九	"	"	"	"	"	"	一九年	
			一、九六〇	"	"	"	"	"	"	一九年	
			三十五年	"	"	"	"	"	"	三十五年	
			三十六年	"	"	"	"	"	"	三十六年	
			三十七年	"	"	"	"	"	"	三十七年	
			一、九六一	"	"	"	"	"	"	一、九六一	
			一、九六二	"	"	"	"	"	"	一、九六二	
			溝(約一米)	と井戸が検出された。第二次調査三月十二日に完了。	二月十九日から、西寺公園の北側を発掘調査し、食堂院、廊、八脚門と、	光徳幼稚園が、高田町に開園した。 松尾大社の神幸祭が坦手の不足から、四月二十日以後の日曜日になつた。	下京区から分區し、南区唐橋となり、高畠町は下京区に残る。 七条第一小学校を、唐橋小学校に復久する。	主な唐橋村(学区)と関連のできごと	主な東寺、京都、と日本のできごと	四月、阿蘇山が爆発し、修学旅行生ら、六十人が死傷した。	
			九月、國產第一号の原子炉に点火する。	八月、初の国産旅客機のYS-11が成功する。	九月、伊勢湾台風で、死者、不明五、二〇〇人。	九月、カラーテレビの放送を開始。	九月、第一室戸台風で、被害が大であった。	九月、新日本安全保障条約に調印する、六月前後には、反対阻止のため、全学連を中心に全国でデモが起る。	九月、伊勢湾台風で、死者、不明五、二〇〇人。	九月、カラーテレビの放送を開始。	
			九月、國產第一号の原子炉に点火する。	八月、初の国産旅客機のYS-11が成功する。	八月、東海村で日本初の原始の火灯る。	八月、東海村で日本初の原始の火灯る。	八月、東海村で日本初の原始の火灯る。	八月、東海村で日本初の原始の火灯る。	八月、東海村で日本初の原始の火灯る。	八月、東海村で日本初の原始の火灯る。	
			一月、メートル法を実施する。	一月、メートル法を実施する。	一月、南極観測隊が、オングル島に上陸し、昭和基地と命名す。	一月、南極観測隊が、オングル島に上陸し、昭和基地と命名す。	一月、南極観測隊が、オングル島に上陸し、昭和基地と命名す。	一月、南極観測隊が、オングル島に上陸し、昭和基地と命名す。	一月、南極観測隊が、オングル島に上陸し、昭和基地と命名す。	一月、南極観測隊が、オングル島に上陸し、昭和基地と命名す。	
			四月、国民年金が公布される。								
			五月、伊勢湾台風で、死者、不明五、二〇〇人。								
			六月、六月十八日から、西寺公園の東側に、貯水槽、兼プールの建設で第一次の西寺跡の発掘調査を行い、東僧坊跡の礎石が並んで検出される。								
			七月、朝鮮休戦協定に調印する。	七月、朝鮮休戦協定に調印する。	七月、都道府県の警察が発足する、警察庁。	七月、都道府県の警察が発足する、警察庁。	七月、都道府県の警察が発足する、警察庁。	七月、都道府県の警察が発足する、警察庁。	七月、都道府県の警察が発足する、警察庁。	七月、都道府県の警察が発足する、警察庁。	
			八月、京都小御所が花火の飛火で焼失する。								
			九月、洞爺丸が、台風十五で転覆し、遭難者一、四四〇人。								
			十月、金閣が再建された。								
			十一月、日本の国連加盟が決まる。								
			この年、日本は神武景気となる。								



西寺跡の第一次調査 昭和 34 年 6 月 東僧坊



171 号線（九条通）
国道陸橋より西を見る

時代	西暦	日本年号	近代・現代							
			昭和	和	時	代	近	代	現	代
一、九六二	昭和三十七年	昭和三十七年	"	"	"	"	"	"	"	"
一、九六三	昭和三十八年	昭和三十八年	"	"	"	"	"	"	"	"
一、九六四	昭和三十九年	昭和三十九年	"	"	"	"	"	"	"	"
一、九六六	昭和四十一年	昭和四十一年	"	"	"	"	"	"	"	"
一、九七〇	昭和四十五年	昭和四十五年	"	"	"	"	"	"	"	"
一、九七一	昭和四十七年	昭和四十七年	"	"	"	"	"	"	"	"
一、九七三	昭和四十八年	昭和四十八年	"	"	"	"	"	"	"	"
一、九七四	昭和四十九年	昭和四十九年	"	"	"	"	"	"	"	"
主な唐橋村（学区）と関連のできごと										
九月、西寺跡の第三次調査が、小学校の北側で行なわれ、金堂跡が検出。										
十一月七日からは、小学校の西側で西僧坊が検出された。										
十二月二十七日に終了する。										
八条通りが東海道新幹線の拡幅で、旧千本通りから西高瀬川まで、いちじるしく変動した。										
蓮華保育園が井圓町北部に開園したが、現在は閉園する。										
西寺跡の第四次調査、ブールの新設で。										
西寺跡の第五次調査、近藤ビルの建設で。										
神幸祭の御神靈は唐橋で舟渡御し、桂大橋の東詰め河原町の斎場で「ミタマ」移しが行われ、御旅所へ巡行する。										
西寺跡の第六次調査。小学校のグラウンド中門と金堂の跡。										
還幸祭から担手の不足で御旅所に居続ける。										
五月三日から小学校の改築で、第八次の西寺跡の発掘調査を行い南大門、中門、回廊が検出され、六月十七日に完了する。										
六月二十五日から、鎌達稲荷神社の社務所の建設で発掘調査し、北僧坊の検出と、瓦や土器が出土しました。第九次調査										
京都市文化財の依頼で、史跡西寺跡保存会を結成した。										
六月十七日に、門脇町の窪田木工所を中心に大火があつた。										
八月二十日、東寺金堂、講堂、食堂の東側、西側を掘削している。										
七月、名神高速道路の尼崎～栗東間が開業する。										
三月、伏見桃山城が竣工した。										
六月、新潟県でM7.5の大地震起る、死者、不明三十八名余り。										
十月、東海道新幹線が営業を開始する。										
十一月、オリンピックが、東京で開催される。										
十一月、京都タワーが竣工した。										
十一月、建国記念日を一月十一日とする。										
三月、日本万国博覧会が大阪の千里で開催される。										
日本、初の人工衛星を打上げる。										
二月、冬季オリンピックを札幌で開催する。										
五月、沖縄県が、本土に復帰した。										
九月、日本と中国が国交を樹立する。										
十月、オイルショックが発生する。										

時代	西暦	日本年号	近代・現代									
			昭和時代					現代				
一、九七五	"	昭和五十年	主な唐橋村(学区)と関連のできごと									
一、九七六	"	五十一一年	この年は、戦後最大の不況となる。									
一、九七七	"	五十二年	七月に、沖縄海洋博覧会が開催される。									
一、九七八	"	五十三年	一月に、平安神宮の東西本殿と内拝殿が全焼した。									
一、九八〇	"	五十五年	この年に、日本が世界一の長寿国になる。									
一、九八一	"	五十六年	五月に、成田国際空港が開港する。									
一、九八二	"	五十七年	この年に、日中平和条約を結ぶ。									
一、九八三	"	五十八年	十月一日付の国勢調査で、唐橋学区の戸数が三町二百五十一戸、男、四町									
一、九八五	"	五十九年	六百六十七人、女、四町八百六十八人で計九町五百三十五人。									
一、九八六	"	六十一年	九月六日に、唐橋小学校の改築工事が終る。									
			六月一日に、北西の三階建校舎の中、一階が学校音楽センターになる。									
			八月に、二階と三階が、唐橋文化教育会館として発足した。									
			十一月三日に、創立五十周年の祝賀会が行われた。									
			神輿の巡行が復活しました。									
			十月一日付調査で世帯数三、二五二、男四、一八〇人、女四、六一七人									
			総人口八、七九七人で、工業は卸売業四十七、小売業百八十八、									
			農業七、飲食業六十、工場百一十七、建設業三十二、不動産業									
			四五、製造業百六十三、金融保険業八、サービス業百四十八									
			六月に東寺西門通りの北側で発掘調査が行はれ、西寺食堂院の南側、北側で、中仕切、築地跡、井戸等が検出され、古墳時代の西寺造営より以前の竪穴式住居跡が八棟が検出する。又西寺公園の北西の調査で、奈良時代の土器が出土し、食堂院の西回廊や、多数の灰窯体の破片、ルツボ、銅鐸が出土し、遺構は工房に関連し、創建時に存在か?									

史跡西寺跡保存会会則

1979年(昭和54年)6月15日

第一条(名称と構成) 本会は「史跡西寺保存会」と称し地元有志をもって会員を構成する

第二条(事務所) 本会の事務所は会長所在の場所に置く

第三条(目的と事業) 本会は史跡西寺跡の保存管理を目的とし、京都市より委託金を得て史跡西寺跡国有地の見回り、監視、および除草、清掃を行う

2. 前項の事業にあたっては、京都市と年度毎に委託契約を締結し事業完了時に報告書を作成する

第四条(役員) 本会は役員として会長、副会長、会計および監査役をおく

第五条(役員の任務) 役員は役員会を組織し第三条の事業実施に関し必要な協議を行う

2. 会長は本会を代表するとともに会務を執行する
3. 副会長は会長を補佐し会長事故のあるときは、その職務を代行する
4. 会計は本会の経費を管理運用する
5. 監査役は会務を監査する

第六条(会計) 本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までとする

2. 本会の経費は京都市より委託金を持ってこれにあてる

第七条(その他) 会則に定めがない事項についてはその都度役員会で協議する

附則 本会則は4月1日から実施する

史跡西寺跡保存会会員名簿

会長	小竹道夫	西平垣町39	会計	山下 杰次郎	花園町63
副会長	竹沢丈太郎	南琵琶町		今中一郎	赤金町67
庶務	秋山正文	井園町47		佐藤庄造	堂ノ前町50
監査	高畠久尚	芦辺町1-1		本田徹	大宮尻町7
会計	田保五一	花園町63		和佐田親市	高田町31
	高本君子	井園町31		木戸芳太郎	高田町6
	伊藤新七	高田町7		金井清	堂ノ前町1
	森口征雄	高田町2		長尾数一	平垣町56
	会計に同じ			奥野次郎	西寺町47
	大藪唯雄	川久保町南		梅本敏雄	堂ノ前町2の22
	西本昌幸	門脇町93		長野晋一	花園町37
	山中忠生	大宮尻町西		村上敏勝	高田町20
	笹原未和	八条団地24		赤月萬州二	門脇町77
	平井芳春	経田町一部		佐藤昭一	花園町17
副会長	城所五郎	南琵琶町		岡田匡彦	高田町14
	山極興	中琵琶町		溝口清二	門脇町24
	今井幸一郎	花園町41		横山茂	琵琶町6
	大藪庄三	西寺町23		沖野真三	花園町37
	柄原敬一郎	堂ノ前町12		永徳嘉弘	川久保町24
庶務	山本好一	花園町1		阪口輝光	井園町50
				尾方敏	大宮尻町10
					松葉荘

時代	西暦	日本年号	近代・現代
			平成時代
一、九八六	昭和六十一年	一、九八八	一、九八九
一、九八七	昭和六十二年	一、九八八	一、九八九
"	六十三年	"	一、九八九
一、九八九	平成元年	一、九九〇	一、九九〇
"	二年	"	"
一、九九一	平成二年	一、九九一	四月一日付、世帯数、三戸一百戸、人口八戸七百人。
一、九九二	三年	一、九九二	七月より、赤金町の長谷川工務所の所有地を発掘調査
一、九九四	四年	一、九九四	古墳時代の竪穴式住居跡、畦道跡溝跡を発見し、朱雀大路寄りから車石が一箇出土した、と(今中一郎氏)より聞く、十月に完了する。
一、九九五	六年	"	十一月に平安遷都一千二百年の記念式典が開催された。
七年	"	"	十一月に天皇陛下が即位。
			この年にバブル経済が崩壊した。
			東寺の鎮守八幡宮が再建された。
			十一月に、古都京都の文化財が世界遺産に登録される。
			十一月五日、第一回京都マツリの南区前夜祭を東寺の金堂前にて行う。
			九月に、関西空港が開港する。
			九月、琵琶湖の水位がマイナス百二十三センチとなる。
			一月、阪神、淡路に大震災が発生し、死者五万人を超える。

時代	西暦	日本年号	主な唐橋村(学区)と関連のできごと
近代・現代	平成・昭和	昭和	
一九九七	一九九七	平成九	七月、JRの京都駅ビルが完成する。
一九九八	一九九八	平成九	十月、地下鉄の東西線が開業する。
一九九九	一九九九	平成九	四月、消費税が5%になる。
二〇〇〇	二〇〇〇	平成十	十月に西寺育成院が、平垣町に完成し、四月一日から障がい者の福祉施設として開苑した。
二〇〇一	二〇〇一	平成十一	唐橋児童館が完成。
二〇〇二	二〇〇二	平成十二	二月に西寺育成院が、平垣町に完成し、四月一日から障がい者の福祉施設として開苑した。
二〇〇三	二〇〇三	平成十三	二月、新潟県中越で大地震。死者四十名、負傷者三千人。
二〇〇四	二〇〇四	平成十四	三月、東日本大震災。死者二万人。
二〇〇五	二〇〇五	平成十五	三月、京都水族館がオープン。
二〇〇六	二〇〇六	平成十六	四月、消費税が8%になる。
二〇〇七	二〇〇七	平成十七	八月、広島市で記録的な豪雨、死者七十四人。
二〇〇八	二〇〇八	平成十八	九月、御嶽山が噴火し、登山客ら五十七人死亡。
二〇〇九	二〇〇九	平成十九	十月、舞鶴のシベリア抑留と引揚げ資料と東寺百合文書が記憶遺産に登録された。
二〇一〇	二〇一〇	平成二十	四月、熊本県で大地震が起こる。
二〇一一	二〇一一	平成二十一	四月、京都鉄道博物館がオープンした。
二〇一二	二〇一二	平成二十二	十月、一〇一三年(平成二十五年)に海底噴火から西之島は約二倍になる。
二〇一三	二〇一三	平成二十三	十月、鳥取県で震度六弱の地震が起きる。
二〇一四	二〇一四	平成二十四	十月、阿蘇山で三十六年ぶりに爆発的噴火が起きる。
二〇一五	二〇一五	平成二十五	
二〇一六	二〇一六	平成二十六	
二〇一七	二〇一七	平成二十七	
二〇一八	二〇一八	平成二十八	

その他に、

一、現在の平垣町と大宮尻町の東半分の発掘調査では、弥生時代から江戸時代に至る建物群や遺構が検出されている。（唐橋遺跡）

西寺跡の発掘調査では、（一、九五九～九〇）年、（昭和三四～平成二年）年の間に実施

一、成果は、南大門、中門、金堂、食堂、僧房、回廊、少子房、僧綱、政所院、中仕切築地塀、修理所、が判明し確認した。

一、講堂、北院、宝蔵、鐘楼、經藏、御靈堂、塔、倉垣院、花園院、太衆院、東西の門、北大門、等の跡は、現在建物があり、今後の調査に委ねる。

唐橋地域のお祭りと起源について

一、（一、一四九年）久安五年の八月四日条【本朝世紀】に「今、松尾行幸巡檢也」との記事があります。

一、主祭神は、大山咋神と中津姫命の二柱で唐橋の大宮社の神輿に乗っておられます。

【松尾大社の古文書、神代系図の神祇譜傳図】に依る。

一、松尾祭りは、賀茂祭りと同じく、葵蔓（あおいづる）で飾るので、これを「松尾の葵祭り」と呼ばれています。

一、唐橋地域のお祭りは「還幸祭」（おかえり祭）で西寺跡の朝日社（講堂跡）現在は（旭の社）西寺公園の西側に六社の神輿と唐櫃が勢揃いし、祭典が行はれた後、お山（松尾大社）へと帰られます。

一、以前の「おまつり」は、旧暦で神幸祭（おいで祭）は卯（う）の日で、うかへ来て（西大宮お旅所）へ、現在の西七条御旅所還幸祭（おかえり祭）は酉（とり）の日で、とつとと帰る（松尾大社「お山」）へ、と言われた。



桂川の舟渡し。神幸祭（おいで祭り）

1991年 平成3年4月26日

桂離宮の東側より舟渡し、河原斎場に向かう。
紺地に白の大宮社大旗を立て人々の群れで両岸に連なる。



唐橋村、大宮社の神輿が松尾大社に還幸、到着。

フィナーレに相応し拝殿廻りです。
三回を五回～七回と鈴を鳴り響かせながら最高の場を見せます。

あとがき

多くの方々の御協力と文献、資料を使用させて頂きました。御礼と、御許しを申上げます。

京都市南区五十周年記念誌の資料

平安京堤要、京都市文化財保護課より、唐橋、西寺、東寺、祭掘資料、京都新聞の記事、
松尾大社の古文書と洛西、中央公論社の日本歴史別巻五、京都府新誌、京都南刊行、
三省堂の新日本史、平凡社の日本歴史地名大系二十七、木下弥一郎氏編集の南区のむかしの
村むら、

唐橋小学校の五十年誌、辰馬六郎著の近畿の名積、西寺紀綱、昭和三十九年発行の東寺、
山根数雄氏の井堰論争繪図面と書面、井上文雄氏の自宅発掘調査書と明治九年唐橋村の地図、
等々です。

不足の点、間違いの点、等々あると存じますが、御指摘を頂き、更なる唐橋村の歴史が発見
できることをお願い致します。

唐友会 会員名簿

平成 28 年 8 月現在

No.	氏 名		住 所	備 考
1	今井 幸一郎	とせ子	唐橋花園町41	会 長
2	木浦 正雄	茂 子	唐橋赤金町56	副 会 長
3	西村 昭二	いそ子	唐橋花園町63	会 計
4	戸田 修二	陽 子	唐橋川久保町26	28年度幹事
5	清水 不二夫	朱 美	唐橋南琵琶町30-2	28年度幹事
6	北尾 友昭	芳 子	唐橋平垣町15	
7	岡 輝雄		唐橋西寺町36	
8	和佐田 親一	彰 子	唐橋大宮尻町20	
9	村上 和彦		唐橋平垣町55	
10	森岡 隆司	久 恵	唐橋赤金町52	
11	澤田 章雄	裕 子	唐橋琵琶町44	
12	河原 昭雄	恵	唐橋花園町8	
13	田中 正勝	八重子	唐橋羅城門町55	

唐友会 60 周年記念

唐橋の郷土史

2016 年 12 月発行

発 行：唐 友 会
 著 者：今井 幸一郎
 執筆協力：唐友会会員
 印 刷：メディア・ワークスラクナン

